

令和4年度 三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」調査研究事業

フレンテみえの絵本 「みっちときりー」

就学前施設・小学校での実践事例報告



令和5年3月

三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」

(指定管理者：公益財団法人三重県文化振興事業団)

三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」では、すべての人々の人権が保障され、一人ひとりが、性別にかかわらず、自立した個人として、その個性と能力を十分に発揮することができる社会、それぞれに多様な生き方が認められる社会をめざし、情報発信・研修学習・相談・調査研究・参画交流・人財育成の6本柱で様々な活動を行っています。

令和2年に閣議決定された国の「第5次男女共同参画基本計画」では、基本的な方針に、男女共同参画の取組の進展が未だ十分でない要因の一つとして、『社会全体において固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）が存在していること等が考えられると総括できる』と記されています。

三重県の「男女共同参画に関する県民意識と生活基礎調査（令和元年度）」においては、半数以上の方が学校は男女平等だと認識しているという結果が出ています。しかし、その学校ですら、管理職割合や、高等教育機関への分野別の進学率に男女格差があったり、日々の生活の中で、「男の子なんだから泣かないの」「女の子は行儀よくしないと・・・」といった声をかけられたりするのが現状です。こうした小さな積み重ねが、子どもたちに知らず知らずのうちに「男がリーダー」「女はケア役割」という固定的役割分担意識や「女らしさ」「男らしさ」というジェンダー意識を植え付けてしまっています。

そのような背景から、フレンテみえでは、幼少期からジェンダー平等に関する情報や知識に触れることが重要だと考え、親世代の若い方々に参加していただけるような講座を企画したり、学校の先生や生徒向けに出前講座を実施したりしています。そして、令和3年度の調査研究において、皆が「自分らしく」を大切にできるようにという思いを込め、「みっちときりー」という絵本を作成しました。

今年度は、保育や教育現場で指導にあられる先生方にご協力いただき、この絵本を活用した事例をまとめました。多様な取組をご報告くださいました先生方に感謝申し上げますとともに、より多くの方にこの絵本に触れていただき、保育や教育現場でのジェンダー平等の推進に寄与しますことを祈念いたしております。

令和5年3月

公益財団法人三重県文化振興事業団
三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」所長
萩原 くるみ

はじめに	1
I. 目的と概要	
1. 目的	4
2. 概要	4
3. 絵本の概要	5
II. 就学前施設での活用事例	
1. 津市立観音寺保育園	6
2. 名張市立薦原保育所	10
3. 津市立津みどりの森こども園	14
4. 学校法人藤学園 藤認定こども園	16
5. 学校法人大川学園 津西幼稚園	18
6. 南伊勢町立穂原園、なかよし園	20
III. 小学校での活用事例	
1. 伊勢市立御菌小学校 第1学年	22
2. 伊賀市立中瀬小学校 第1学年	26
3. 松阪市立第四小学校 第2学年	30
4. 名張市立錦生赤目小学校 第3学年	34
5. 紀宝町立相野谷小学校 第2・3学年	38
6. 津市立新町小学校 特別支援学級	40
7. 津市立北立誠小学校 全学年	42

IV. 参考事例：イベントでの活用

1. 民間保育施設（子育てサロンあっぷる）44
2. 複合文化施設（三重県総合文化センター）48

V. まとめと考察

1. 就学前施設での活用事例から52
2. 小学校での活用事例から54
3. 小学校での多教科での活用へ向けての提案56

VI. 付録資料

1. 絵本の基本設計等58
2. 絵本の内容59
3. 読者からのフィードバック65
4. 報道記事等66

おわりに

- 【 寄稿 】 「ジェンダー」という言葉が必要のない社会へ68

I. 目的と概要

1. 目的

ジェンダー形成期にあたる幼児・児童および保育者に向けて、性別による決めつけではなく「自分らしさ」を大切に、それぞれの違いを認めることを伝える目的で、令和3年度調査研究事業としてオリジナルの絵本を制作した。県内に広く配布したところ、多くの教員や読み聞かせサークルの方々から歓迎の声をいただいた。一方で、教科書や参考書のような教材とは異なる形態のため、保育現場や教育現場での活用には指導にあられる先生方にお任せする部分が大きいと感じている。そこで、現場の保育士・教員のための手引きとしていただくため、実際の保育・教育現場等での活用事例を収集し、紹介することとした。本書は、オリジナル絵本の活用を例として、三重県内のジェンダー教育の実践に寄与することを目的として編集する。

2. 概要

絵本「みっちときりー」の主旨に賛同いただいた就学前施設・小学校等にて保育・教育の中で実際に絵本の活用を実践いただき、その事例について、以下の点を報告する。

- ・対象者（学年・年齢・人数）
- ・実施時間 ※小学校での活用事例における1時間は1コマ=45分をさす
- ・学科 ※小学校のみ
- ・主眼・目的（目標・めあて等）
- ・指導過程
- ・指導上の留意点
- ・子どもの反応
- ・先生の感想・考察
- ・その他、使用した資料や掲示物、配布物、写真等

■ 事例数・参加人数

施設の種類の	学年等	事例数	参加人数(子ども)
就学前施設	公立保育園	5歳児 2例	28人
	公立こども園	5歳児 1例	59人
	私立こども園	5歳児 1例	23人
	私立幼稚園	4歳児 1例	28人
	公立保育園(自治体主導)	2~5歳児 1例	32人
小学校	公立小学校	第1学年 2例	43人
		第2学年 1例	28人
		第3学年 1例	26人
		第2・3複式学級 1例	15人
		特別支援学級 1例	6人
		全学年 1例	464人
その他	イベントでの活用	2例	40人
合計		15例	792人

3. 絵本の概要

- ・タイトル フレンテみえの絵本「みっちときりー」
- ・クレジット 文：フレンテみえ・KYO
絵：KYO

■ あらすじ

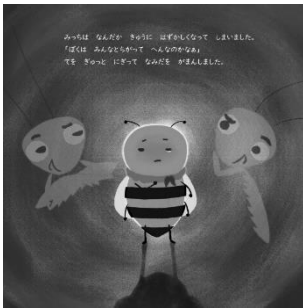
(前半) 主題：性別に関わらず自分らしさを大切にする

みつばちの「みっち」は、お花が大好き。でもある日、かまきりの「きりー」から「女の子みたい」と言われてしまう。急に恥ずかしくなって、男らしくなろうと努力するが、てんとうむしの「なな」から「みっちじゃないみたい」と言われ、はっと気づく。「おとこのこらしく、おんなのこらしくなんて、もう気にしない。ぼくは、ぼくらしくいれば、いいんだよね」

(後半) 主題：対話によって違いを認める

「きりー」と仲良くなりたいたい「みっち」。「きりー」の好きな遊びを一緒にしようとするが、やってみても楽しくない。好きなものが違うと気づいた「みっち」は、ふたりが好きな遊びを探そうと提案する。一緒に楽しめる遊びが見つかり、笑顔で喜ぶ「みっち」を見て、「きりー」は初めて「みっちらしさ」に気づく。「みっちのこと、おんなのこみたいで かっこわるいって おもってたけど、ちがってた。わらってるみっちが、いちばんいいよ」

それから、互いのことをたくさん話し、それぞれの「らしさ」を尊重した関係を築いていく。



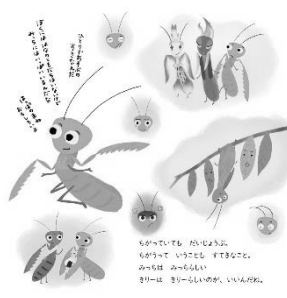
3 頁



10-11 頁



20-21 頁



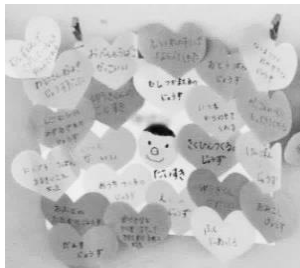
22 頁

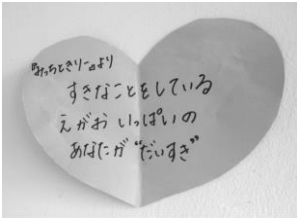
※絵本の詳細については【付録資料 58 頁】にて詳しく紹介する。

II. 就学前施設での活用事例

1. 津市立観音寺保育園

概要：年長児が取り組んだ「良いところ探し」の最後のまとめとして活用した。

施設名 観音寺保育園		担当者 前原 佳苗	
対象の園児の年齢 5歳児	参加した園児の数 14人	実施時間等 60分 前過程：1カ月ほど	
主眼・目的 <ul style="list-style-type: none"> ・絵本や良いところ探しを通して、自己肯定感を高めたり、友だちのことを考える機会を持つことで、他者に対するに思いやりの気持ちを高めていく。 ・言葉による伝え合いを経験し、思考力や表現力を身につけていく。 			
指導過程		指導上の留意点	
<p>【前過程：良いところ探し】 (画用紙の真ん中に自分の自画像を描いておく)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の良いところを考え伝え合う。 ・伝え合った後、ハートの画用紙に1つずつ良いところを書いていく。 ・自画像の周りにハートの画用紙を貼っていく。  <p>【絵本「みっちときりー」大型絵本を読む】</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から保育者が子どもたちの得意な事・良いところなどを認め、温かい雰囲気作りをする。 ・前日より、明日は誰の良いところ探しをするのかを伝えておき、生活の中で良いところと一緒に見つけていけるようにする。 ・良いところを出し合ったら、主役の子を前に呼び、ホワイトボードに書かれたたくさんの良いところを見せ「その子らしさ」をみんなで認める。 ・出来上がったら、子どもや保護者の見えるところに飾り、保護者にも認めてもらい、自己肯定感を持てるようにする。 ・良いところ探しで友だちについて考えた経験から、前よりも友だちの思いに気づいたり、自分を肯定的に捉えられたりしている。内容の理解度が深まっているこの時期に絵本「みっちときりー」を見る。 ・大型絵本の大きさに驚く子どもたちの気持ちに寄り添い、読む前から興味を持てるようにする。 ・抑揚をつけて読む。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・感想をみんなで話し合う。 ・大型絵本の蛇腹を伸ばし、子どもの周りを絵本で囲む。異空間を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感想を受け止め共感したり、同じような日常の出来事を提示し「こういうときどうする？」と聞いたりする事で、行動に移してみようと思えるように援助する。 ・絵本に囲まれた不思議な空間を一緒に楽しむ。 ・良いところ探しを飾っている周りに絵本「みっちときりー」の名言を飾り保護者支援に繋げる。
---	---

■ 園児の反応・感想

<p>○フレンテみえの絵本「みっちときりー」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(通常サイズの絵本) 見たことある ・女の子みたいって言われたら嫌だ ・嫌なこと言われたら「やめて」っていう ・無理して好きな遊びをやめていて泣きそうになった ・最後は2人共にここになれて良かった ・面白かった ・絵が可愛かった ・きりーが最初意地悪だった <p>○大型絵本に囲まれて (とても大きくて目を輝かせる子どもたちだった)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(お花の絵が可愛くて) お花畑にきたみたい ・すごい ・大きい ・こんなの初めて ・長い ・楽しい

■ 先生の感想・考察

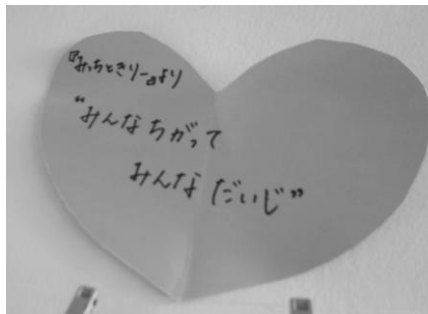
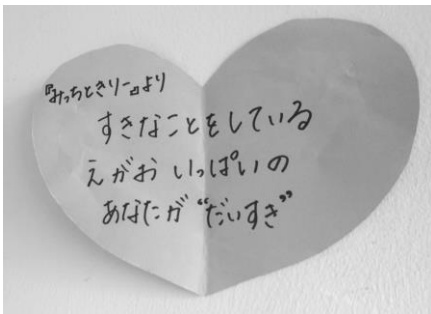
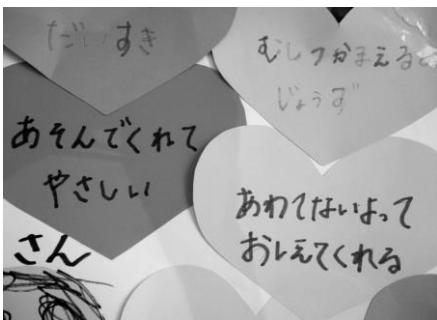
<p>昆虫が好きなクラスのため、昆虫の世界の話に興味を持ちやすかった。良いところ探して自分を認めてもらったり、友だちについて考えたりすることを1か月程してきて、最後のまとめとして読む絵本にふさわしかった。自分のしたいことを大事にしながらも、友だちとどのように遊べば2人共が楽しくいられるのかを、分かりやすく絵本にされていて子どもたちの反応も良かった。読んだ後友だちと遊ぶ中で、前よりも折り合いをつけようとする姿が見られた。今後も定期的に読み、自分の思いを適度に表現しながら友だちと関わっていけるように援助していきたい。</p> <p>通常サイズの絵本は、以前から園にあり読み聞かせをしたこともあったが、巨大な絵本は迫力満点で釘付けになり最後まで楽しみながら見ることができた。クラス全員を絵本で囲むと、とても喜び迎えに来た保護者に「えほんのなかにはいった」「おおきかった」と嬉しそうに報告する姿が見られた。</p> <p>良いところ探しを飾っている周りに絵本『みっちときりー』の名言を飾ることで、子育てを振り返るきっかけになり、保護者支援にもなったように思う。</p>

■ 大型絵本について

フレンテみえで作成した90cm角の段ボール製絵本。詳細は【参考事例 51頁】を参照のこと。

II. 就学前施設での活用事例

■「良いところ探し」の壁面制作



■ 当日の掲示物

取組内容は当日の掲示物で保護者にも紹介された。

フレンテみえの絵本『みっちときりー』

見るなり、大きさにびっくりの子どもたちでした！！卓球台の半分くらいの大きさもあるじゃばら絵本で、広げてみるとお部屋いっぱいにぐるっと一周できるほどでした。絵本に囲まれて「はいポーズ！！」



人権の絵本で、男の子だから！女の子だから！と、何かを我慢する必要はない、好きなものが友だちと違



っても良い！「わたらしい」を考えさせられる絵本でした。～子どもの声～

おんなのこみたいていわれたらいやだ

いやなこといわれたら「やめて」っていう

むりして、すきなあそびをやめててなきそうになった


さいごはふたりでニコニコになれてよかった！




II. 就学前施設での活用事例

2. 名張市立薦原保育所

概要：3日間の連続した取組のうち、1日目の題材に選択した。

施設名 薦原保育所		担当者 松嶋 順子	
対象の園児の年齢 5歳児	参加した園児の数 14人	実施時間等 20分×3日間	
<p>主眼・目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿から性別によって男性は強く、女性は可愛く、家事をするのは母親の役目などのイメージがあるため、絵本の読み聞かせや、日頃のかかわりからそのイメージに対してゆさぶりをかけるようにする。 ・子どもの見方は保護者の人権感覚の影響を受けているため、保護者への啓発等について職員間で考える。 <p>(課題設定の理由)</p> <p>職員会議にて、ジェンダーに関する子どもの姿について職員間で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5歳児14名は日頃は男女に区別なく遊ぶ姿が見られる。 ・生活の中では、男児に「かわいいな」と声をかけると「かっこいいやろ」と言う姿がある。 ・「お父さんは仕事してる」「お母さんがご飯作る」などの会話が聞かれることもある。 ・保護者の中に泣いている自分の子どもに「男の子やのによく泣く」と言う姿も見られる。 <p style="text-align: center;">子どもの姿、課題を明確にし、ねらいを上記のようにする。</p>			
指導過程		指導上の留意点	
<ul style="list-style-type: none"> ・3冊の絵本を担当が題材に選ぶ。 <p>【1日目】絵本：「みっちときりー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせの後に、質問「どう思った？」 ・感想をみんなで話し合う。 ・髪型等ジェンダー要素のない簡易なイラスト 泣く 笑う 怒る を見て  <p>「男の子かな女の子かなどうかなと聞く」</p> <p>【2日目】絵本：「タンゲくん」</p> <p>読み聞かせの後、お父さんが食器洗いをしている場面やお母さんがお父さんにお酒を注いでもらっている場면을再度見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問「お家ではどう？」 ・感想をみんなで話し合う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・取組の週を決め、連続して読むようにする。 ・質問が誘導にならないように配慮する。 ・見ている時の子どもの反応も見っていく。 ・子どもの感想を書き留め、取組の前と後の感想を比べる。 ・質問が誘導にならないように配慮する。 ・質問が誘導にならないように配慮する。 ・見ている時の子どもの反応も見っていく。 	

<p>【3日目】絵本：「男らしく、女らしくがいいの？～ジェンダー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせの後に、質問「どう思った？」 ・感想をみんなで話し合う。 ・髪型等ジェンダー要素のない簡易なイラスト 泣く 笑う 怒る を見て  <p>「男の子かな女の子かなどうかと聞く」</p> <p>【後日】さくらだより配布</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・質問が誘導にならないように配慮する。 ・見ている時の子どもの反応も見ていく。 ・子どもの感想を書き留め、取り組みの前と後の感想を比べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・質問が誘導にならないように配慮する。 ・保護者への啓発として投げかけをする。
---	---

■ 園児の反応・感想

<p>【1日目】絵本：「みっちときりー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そのままいいのにな（みっちのこと） ・仲良くできるところが素敵やと思った ・「ごめんね」と言ってくれて嬉しそうだった <p>（男の子かな女の子かなの問いについて）男の子女の子じゃなくて、ちゃんと名前と言ってほしい → 「女の人って言われたらどんな気持ち？」 → 嫌な気持ち</p> <p>【2日目】絵本：「タンゲくん」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パパがお酒飲む ・ママもちょっとだけ飲む ・パパも掃除する ・ママだけ片付けする など <p>【3日目】絵本：「男らしく、女らしくがいいの？～ジェンダー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知ってる（テレビで見て？） ・仲良くなってくれたので良かった <p>○イラストの反応への変化</p> <p>1日目は「男の子だと思う」「女の子だと思う」と明確に答える子どもが多かったが、3日目には即答せずに考えたり、どちらか決めない、絵だけでは分からないと答える子どもが増えた。</p>

II. 就学前施設での活用事例

■ 先生の感想・考察

- ・ 今回の機会をいただく事で、保育士がジェンダーについて考え子どもの姿について意識して見るようになった。
- ・ 取り組み後も子どものつぶやきなど職員間で話題にし、投げかけの必要性を共通理解できるようになった。
- ・ 男らしく女らしくのイメージをもって成長することで、やがて子ども自身が苦しむことのないようにしたい。男の子は泣かないというイメージを保護者が持っていることは園の課題として重点的に取り組みたい。

(さくらだよりの配布に対して)

- ・ 保護者からの感想はなかったが、泣いている自分の子どもに「男の子やのによく泣く」と言う保護者とは直接今回の取り組みについて話しをしている。価値観の変容までは繋がれていないので、今後も保育士の人権意識を高めながら日頃のかかわりを振り返っていきたい。

■ 題材の紹介



絵本：「タンゲくん」

ある日、片方の目がつぶれた1匹の猫が、家の中へのっそり入ってきました。わたしの膝の上に座ってなついていきます。翌日も、布団の上で気持ちよさそうにのどをゴロゴロいわせています。タンゲくんはうちの猫になりました。勉強をするときも、掃除をするときも、一緒にいます。でも、外へ出かけて行ってしまふから、どこでなにをしているかわかりません。タンゲくんのことを大好きな女の子の素直な気持ちが描かれています。

作・絵：片山健 出版社：福音館書店 発行：1992年10月 ISBN：9784834011630



絵本：「男らしく、女らしくがいの？～ジェンダー～」

NHKのEテレで放送され、大反響の続く番組の書籍化。アイは野球少年の一方、手芸などカワイイものが大好き。でもそれは「男らしくない」と思っています。それがユウに知られたのではないかと心配でたまりません。シツチャカとメツチャカと一緒に、「ココロのでんわ」で、ユウの本音を聞くことができました。

編集：NHK Eテレ「u&i」制作班 原作：西田征史 絵：鈴木友唯 出版社：ほるぷ出版

発行：2022年02月25日 ISBN：9784593102990

※映像版あり【37頁】参照

■ さくらだより

保護者への啓発として、取組の内容をまとめて「人権週間」のお便りとして家庭へ配布いただいた。

さくらだより

NO.5 2022年12月9日

保護者様

12月4日～10日は
人権週間です。

薦原保育所

1948年、12月10日国際連合総会において、「世界人権宣言」が採択されました。その日が「人権デー」と定められ、12月4日からの1週間は人権週間とし、各地で人権尊重を呼びかける取り組みがされています。

保育所では、この機会にジェンダーや男女に関する人権の問題について職員で考える機会を持ちました。

子どもたちの姿で、ピンク色を男の子が選ぶと「女の子みたい」という姿や、泣いている男の子に「男の子なのに」と言う声もあることに注目し、男の子だから、女の子だからという見方を広げて、みんな違っていい、それぞれが自分らしくすることを考えるきっかけになるように、5歳児ぞう組に絵本を読んで投げかける時間をもつようにしました。

子ども達と読んだ絵本を紹介します。

みっちときりー絵本のあとがきより抜粋

オスのミツパチが花を集めるのは、花が好きだから。

好きなものは、みんな違っていいですよね？違っていい当たり前。男の子だからこうしなきゃ、女の子だからこれはダメなんてことはありません。男の子だって泣きたいときはあるし、女の子がリーダーになったっていい。

好きなものが違っていてもいいんです。みんな違ってみんな大事。

みっちときりー フレンテみえの絵本



野良猫のタンゲくんのお話ですが、猫がいるお家では、お父さんが食後洗い物をしてお母さんがお酒を飲んでくつろいでいる場面などが描かれています。

絵本を読んだ後、子ども達とその場面について話すと「ご飯はママだけ作る」という声や「お酒はパパが飲む」という声もありました。

絵本を通して性別で役割は決まるのかな？と考える機会になりました。



タンゲくん 片山 健

子ども達は、主人公が男らしさや女らしさという見方で、つらい思いをしているところから、自分らしく思うままにいい気持ちを変え、笑顔でいると、とても安心したように真剣に絵本を見ていました。

男らしく女らしくがいいの？

～ジェンダー～ NHKEテレ



II. 就学前施設での活用事例

3. 津市立津みどりの森こども園

概要：普段の保育の中での読み聞かせに活用し、感想交流をした。

施設名 津みどりの森こども園		担当者 主任とクラス担任	
対象の園児の年齢 5歳児	参加した園児の数 きりん組 30人、ぞう組 29人	実施時間等 15～20分	
主眼・目的 ・自分の想いや考えを友だちの前で発表し、友だちの意見にも耳を傾ける。			
指導過程		指導上の留意点	
<ul style="list-style-type: none"> ・普段の保育の中で、クラス担任が読み聞かせ ・感想をみんなで話し合う 		<ul style="list-style-type: none"> ・保育者から質問をして促す 「みっちときりーは仲良しかな？」 「この時はどんな気持ちかな？」 等 	

■ 園児の反応・感想

保育者の読み聞かせにじーっと聞き入る姿、挿絵のみっちやきりーの表情をよく見ながら同じように顔を曇らせたり、うれしそうな表情をしたりする姿があった。

○「みっちときりーは仲良しかな？」に対して

・最初は仲良しじゃなかったけど最後は仲良くなった

○「“男なのにお花が好きなの？女の子みたいだな～”と言われてどんな気持ちかな？」に対して
(みんなで声をそろえて) いやや

○次々に手を挙げて

・男の子で花が好きな子もいる ・最後は仲良しになれてよかった

・“自分らしくいればいいや”と言ってよかった ・自分らしく好きな遊びをしたらしい

・男の子もお花が好きだし、遊んでいいと思う ・自分は自分でいい

・好きなものはみんなちがっていい ・それぞれの生活があっていい

■ 先生の感想・考察

- ・子ども達にどこまで響くかな、少し難しいかな、と思いながら読み聞かせをしたが、予想以上にいろいろな反応があって、うれしかった。
- ・5歳児の今の時期（11月末）なので、自分の実体験と重ね合わせながら話を聞くことができたと思う。また、友達とのつながりができてきた今だからこそ、このような反応がたくさんあったのだと思う。
- ・読み聞かせ後の話し合いの中で、「女の子だけブランコのっていい」「女の子しかダメ！」と言うことが子ども達の日常の会話の中であったことがわかった。保育者自身も普段の声掛けの中で発言しているのではないかと反省する機会になった。

■ 翌日のエピソード

保育者が「～するの、恥ずかしいわ！」という話をすると、「先生、男なのに恥ずかしいの？」という子がいた。それを聞いて周りの子が「そんなこと言ったらあかんよ」「男だって恥ずかしいことあるよ」と口々に言うことがあった。絵本の影響なんだなと思い驚いた。

II. 就学前施設での活用事例

4. 学校法人藤学園 藤認定こども園

概要：普段の保育の中での読み聞かせに活用し、感想交流をした。

施設名 藤認定こども園		担当者 濱口 欣子	
対象の園児の年齢 5歳児	参加した園児の数 23人	実施時間等 30分	
主眼・目的 ・子どもたちの性別・性差に対する意識を確かめる。			
指導過程		指導上の留意点	
<ul style="list-style-type: none"> ・絵本「みっちときりー」の読み聞かせをする。 ・読み終わった後、絵本の内容を振り返り、子どもたちの思いを受け止める。 		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの反応をしっかりキャッチしながら保育者の主観を入れないう気をつけながら読み進めていく。 ・一人ひとり感じたことを受け止め、“あなたらしさ”を大切に、個性を認め合えることの大切さを伝える。 	

■ 園児の反応・感想

きりーの「女の子みたいだな」というシーンでは、「えー、男も女も関係ないよな」とつぶやく幼児たちがいた。話を進めていくと、「ぼくもピンクがすき」「お花が好きでもわるくない」「二人が好きなことをみつければいい」とみっちに共感する思いがたくさんあった。読み終わった後も、「男とか、女とか、関係ないよな。楽しかったらいいよな」という幼児に頷く子どもたちだった。

■ 先生の感想・考察

この絵本の読み聞かせの後、子どもたちは、男女関係ないことをつぶやいたり、みんなの前で発表したりしていたが、普段の遊びの中で、「男なのに、ピンクはないやろ」など男女を意識した決めつけの発言が飛び交っているのも現実である。家庭のしつけなどにより、身に付いている性別役割分担意識があるかもしれないし、保育の現場で、私たち保育者も便宜上の区別をしてしまうこともある。おとなが何気なく発する言葉に、子ども達の素直で平等な気持ちをおとなの固定概念や決めつけで壊してしまっていることを感じた。まずは、おとなの意識が大切であることを痛感した。

II. 就学前施設での活用事例

5. 学校法人大川学園 津西幼稚園

概要：運動会以降、関心を寄せる多様性の学びからジェンダーにつなげた。

施設名 津西幼稚園		担当者 大倉 千佳	
対象の園児の年齢 4 歳児	参加した園児の数 28 人	実施時間等 30 分	
主眼・目的 ・絵本を通してジェンダーに関心を持つと共に、自分や友だち、周りの人を大切に思う気持ちを育む。			
指導過程		指導上の留意点	
<ul style="list-style-type: none"> ・絵本を読む「みっちときりー」 ・絵本を振り返りながら、みっちの気持ちをみんなで考える。 ・ショートカットの女の人の写真を見せ、みんなで話し合う。 ・いろいろな国の人（イラスト）について知る。（興味を持つ。） ・2 学期を振り返りながら、一人ひとりの頑張りやステキな所を認め合う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・1 つ 1 つの言葉を大切にしながら読み進めていく。 ・子どもたちの声にも丁寧に耳を傾け受け止める。 ・全員で円になり、友だちの顔が見え、声が届きやすい環境作りをする。 ・一人ひとりの声を拾いながら、共感し、クラス全員で共有したり認めたりできるようにする。 ・子どもたちに投げかけ、意見や思いを出しやすい雰囲気を作る。 ・自分の好きなことを大切にしたり、みんな違って良いことをクラスみんなで感じられるよう話をする。 ・運動会から関係を持っている世界の国について興味づけし、髪の色や目の色、肌の色など、違うことに関心を持てるよう話をする。 ・保育者だけでなく、友だちの良い所やステキな所を発表し、温かい雰囲気の中進めていく。 ・自分を大切にすること、自分の好きなことを大切にすること、そして周りの人のことも大切にできるよう話をする。 	

■ 園児の反応・感想

- ・絵本を読み進めていると、とても真剣に聞き入り、みっちが「どうしてだろう…」とモヤモヤしている場面では子どもたちも悲しそうな顔をしていることが印象的だった。
- ・絵本の中の「おとこのこらしく おんなのこらしく なんて もう きにしない …」の場面では「そうだよね～」と友だちと顔を見合わせて話をしている様子も見られた。

○髪の毛の短い女の人の写真を見せ、「男の人だと思う？女の人だと思う？」と問いかけに対して
(ほとんどの子) 男の人ー！

→「それはどうして？」→ ん～、髪の毛短いから？

→「そっか～。じゃあ髪の毛の短い〇〇先生は男の人？女の人？どっちだろう？」→ 女の人！

- ・あ～。髪の毛短い女の人もいるねー ・何でもいいんだよね～ ・私のママも短い方が好きだよ！

○その後の話し合いの中で

- ・みんな好きなことって違うよね ・みんな違っていいんだよね

○お家の人に「男の子だから泣かない!」とか「女の子だからおとなしくしなさい!」と言われる話になり

- ・ちょっと嫌だなー

という声も出ていた。

○最後、一人ひとりを認め合う機会において

- (子ども同士で) ・〇〇ちゃんすごいよね ・ステキだと思う

■ 先生の感想・考察

- ・この活動のお話をいただいた時は「難しいな」と思ったが、絵本がとても分かりやすく、子どもたちが予想以上に聞き入って、ちゃんと絵本の内容を理解していることに嬉しく思った。
- ・まだ園でも男女一緒に遊ぶことも多く、あまり「男の子」「女の子」で区別することなく接しているこの年齢の子たちであり、先入観がないからこそ、真っ白な気持ちで受け止め、学びにつなげられたことはとても良かったと思う。
- ・自園でもまだ制服が「男の子 ズボン」「女の子 スカート」や上靴の色が違う等、今後検討していくことが多くある。トイレの使い方など、どうしても「男」「女」として教えていかなければならないことはあるが、「みんな違って、みんな大事」を大切に、今後も一人ひとりを認め合える園でありたいなど改めて職員みんなで思った。

II. 就学前施設での活用事例

6. 南伊勢町立穂原園、なかよし園

概要：自治体の主導により、人権擁護委員による人権教室を2つの園で実施した。

企画団体 南伊勢町役場	担当者 伊勢人権擁護委員（南伊勢委員） 南伊勢町役場環境生活課（人権、男女共同参画担当）
参加者の年齢と人数 穂原園 11人、なかよし園 21人 いずれも2～5歳児 ※人権擁護委員5人、環境生活課担当者2人	実施時間等 各園45分
企画の概要・目的 ・南伊勢町人権擁護委員による保育園人権教室。 ・お互いを尊重する心と、差別やいじめをしない人権感覚を養う。	
進行	注釈・留意点・工夫したポイント等
1. あいさつ	・人権擁護委員は、みっちときりーの衣装（お面など）をつける。 ※人権擁護委員のうち2名は、元保育士。
2. 絵本の読み聞かせ 「みっちときりー」 （プロジェクト使用）	・読み聞かせ後、園児に感想を聞き、みんなで考える。 帰宅後、家族でも話ができるように、本の感想を投稿できるチラシを配布する
3. 園児のダンス披露	・園児の得意なダンスを披露してもらい、人権擁護委員も一緒に体を動かす。得意なことを披露することにより一人一人の個性を大切にし、自尊心を育て、また、年齢も性別も問わず仲良くできる意識を高める。
4. おわかれのあいさつ	・今日の絵本について、友達との関わりについて話し、園児の意見を聞く。 帰宅後も、家の方とお話できるように促す。 おわかれのあいさつをして終了。

■ 園児の反応・感想

<ul style="list-style-type: none"> ・みんな男の子も女の子も仲良くしようと思った。 ・楽しかった。
--

■ 企画者の感想・考察

人権擁護委員が手作りしたお面と衣装で、絵本の読み聞かせを行った。園児は、そのお面についても興味を示し、楽しく、また興味深く絵本を聞くことができた。仲良く、お友達の気持ちを尊重できる意識づくりに繋がると感じた。

■ 当日の様子



■ 自治体広報誌での取り上げ

南伊勢町の広報「みなみいせ」にて、事例を紹介いただいた。

※詳細は、【報道記事等 67 頁】に掲載。

Ⅲ. 小学校での活用事例

1. 伊勢市立御園小学校 第1学年

概要：第1学年の学習にて、デジタルブック版を活用した。

学校名 御園小学校		担当者 玉置 智子	
学年 第1学年	教科 学級活動	児童数 28人	実施時間等 1時間×2日
<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「男らしさ」「女らしさ」について考える。 ・「自分らしさ」について考える。 <p>主眼・目的</p> <p>児童同士のつぶやきを聞いていると、休み時間「今、この教室、男ばかりや。」という発言があったり、トイレの前で、「のぞいてくる。」とお互いを意識したり、ピンクの水筒を見て、「女の子の水筒だ。」と決めつけたりする姿が見られた。そこで、「女だから男だから」という考え方や、トイレがなぜ男女別になっているのか考え、誰でも使えるトイレがある話を、第1学年なりにしていく必要があると考えた。この絵本は、そのようなことを考えるきっかけの一つとして、児童に紹介したいと考えた。</p>			
指導過程		指導上の留意点	
<p>・読み聞かせにはウェブサイトのデジタルブックを使用し、各児童のiPadに配布する。</p> <p>【第1時】1～11頁 【第2時】12～22頁</p> <p>【第1時】</p> <p>1. 1～7頁（冒頭～みっちが男の子らしくする場面）読み聞かせをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「男らしい」「女らしい」について考える。 ・意見が出たあと、それについて思うことを発表する。 <p>2. 8～9頁（みっちが本当に好きなことに気づく場面）読み聞かせをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みっちはどうして、もやもやしてわらうのを忘れていたのか考える。 <p>3. 10～11頁（みっちが自分らしさをみつける場面）読み聞かせをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みっちの「ぼくらしさ」とは何かを考える。 ・初めに「男らしい」「女らしい」の意見を問い直し、男や女とわけることが必要か考える。 		<ul style="list-style-type: none"> ・iPadを使って、児童が自分の手元で読めるようにする。 ・自由にページをめくれないよう、初めは1頁ずつ送る。 ・児童の考えを自由に出させる。 ・みっちは「男らしい」について悩む場面であるが、同時に「女らしい」についても考えさせたい。 ・本当はみっちがやりたいと思うことをしていなかったことに気づく。 ・本当はみっちが何をやりたいと思っているか気づく。 ・みっちの顔が笑顔になっていることに気づく。 ・自分らしさを大切にすることの大切さに気づく。 	

<p>【第2時】</p> <p>1. 12～14頁（みっちがきりーの好きな遊びと一緒にする場面）読み聞かせをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みっちときりーの気持ちをそれぞれ考える。 <p>2. 15～18頁（みっちときりーがどちらも好きな遊びを探す場面）読み聞かせをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に遊ぶことの楽しさが見つかった気持ちを考える。 <p>3. 19～22頁（みっちときりーが互いの違いに気づき認め合う場面）読み聞かせをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みっちときりーはいまどんな気持ちかを考える。 <p>4. 自分の好きなことや大事にしていることを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・iPad（ロイロノートを使用）で発表する。 ・提出されたものを紹介する。 <p>5. 思ったこと、心に残った言葉など、感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どうすれば、楽しく遊べるか考える。 ・みっちの気持ちときりーの気持ちとお互いの立場からを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・遊びが見つかった喜びを感じることができる。 ・みっちときりーの気持ちに表情からも気づく。 <ul style="list-style-type: none"> ・お互いの違いを認め合うことの大切さに気づく。 <ul style="list-style-type: none"> ・iPad（ロイロノートを使用）で、自分の好きなもの、好きなことについて発表する。 ・男の子でも、女の子でも、好きなものが違ったり一緒だったりすることに気づく。 <ul style="list-style-type: none"> ・もう一度読めるように、全頁を送って何度も自由に読めるようにする。 ・感想はiPadでは難しいので紙に書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業後、手に取って読めるように、絵本を教室に置く。
--	---

■ 児童の反応・感想

<p>○「男らしい」「女らしい」について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男の子は「おれ」とか「僕」と言う。 ・男の子は半そで半ズボンをはく。 ・男の子はくわがたが好き。 ・男の子はかっこいい。 ・女の子は化粧をする。 ・女の子はドレスを着る。 ・女の子は指輪をする。 女の子は髪を結ぶ。 ・女の子でも半そでを着る。 ・男でも指輪をする。 <p>○みっちはどうして、もやもやしてわらうのを忘れていたのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男っぽくないと言われたから悲しそう。 ・嫌な気持ちで笑えなくなった。

Ⅲ. 小学校での活用事例

○みっちの「ぼくらしさ」とは何かを考える。「男らしい」「女らしい」の意見を問い直す。

- ・本当は気にしないでいい。 ・自分は自分でよい。 ・みつを集めたらいい。
- ・自分らしくいれば幸せ。 ・自分がやりたいことをすればよい。
- ・自分らしく生きることが大切。

○みっちときりーの気持ちをそれぞれ考える。

- ・みっちは苦手な遊びをするのは嫌だ。 ・きりーはやりすぎた。
- ・2人の好きな遊びを見つけたのがいい。
- ・2人の好きなものが違うのがわかった。

○一緒に遊ぶことの楽しさが見つかった気持ちを考える。

- ・どちらもが好きっていいな。 ・なかよくできてうれしい。 ・にっこり。

○みっちときりーはいまどんな気持ちかを考える。

- ・大切な仲間。 ・笑顔いっぱい。

(感想)

- ・みっちは本当はきりーとなかよくしたい。
- ・それぞれ違う遊びや好きなことがあるんだなと思いました。
- ・最初はきりーに女の子みたいって言われて、みつを集めるのをやめたけど、やっぱりみつを集めることにした。
- ・みっちは最初はかわいそうでした。でも、最後はきりーと遊べて嬉しそうでした。
- ・みっちときりーが仲良くできて嬉しそうでした。
- ・最後に二人とも好きな遊びが見つかってよかったです。
- ・みっちが女の子って言われたのが、悲しそうでした。
- ・みっちがやりたいことをやればいいです。
- ・みっちがきりーに遊ぼうって言って友達になって、きりーがみっちのことが大好きになって、みっちがきりーのことが、大好きな友達になったと思いました。
- ・最後のページになかよしになったから、嬉しかった。
- ・笑うのを忘れたのは1番だめなことだと思います。
- ・やりたいことが人それぞれ違う。
- ・みっちたちはやりたいこと、それぞれ違うところもあるけど、同じところもある。
- ・自分がしたいことをしたらいいんだなあとと思いました。
- ・みっちときりーは遊び方が違うんだ。
- ・一緒に好きな遊びができてすごいと思いました。
- ・みっちが2回、男の子なのに、お花が好きなのと言われたけど一緒に遊べてよかったです。

■ 先生の感想・考察

題名「みっちときりー」に対して、みつばちの「みっち」と、かまきりの「きりー」という登場人物に、児童は、とても親しみを持っていた。初めは、「男らしさ」「女らしさ」という言葉を、あまり深く考えずに使っていたが、「どういうことを男らしい（女らしい）というのか。」を具体的に考える時、悩んでいる児童がたくさんいた。みっちやきりーの気持ちを考えていくうちに、みっちが辛い思いをしていることに気がついていった。さらに、みっちだけではなく、きりーも辛い思いをしていることに気がついていった。二人がだんだんお互いを認めて、仲良くなっていく様子を児童の発言から感じる事ができた。最後は、自分らしさの大切さに気付く事ができた。

今回の学習では、「男らしさ」「女らしさ」について考えるきっかけをつくる事ができた。これからも、児童の普段の発言の中で、「おかしい」と感じる事があつたら、立ち止まって考えていきたい。また、児童から、この言葉は「おかしいのではないか。」と声が出てくることを期待したい。

Ⅲ. 小学校での活用事例

2. 伊賀市立中瀬小学校 第1学年

概要：第1学年の生活科にて、3日間取り組んだ。

学校名 中瀬小学校		担当者 藤山 美香	
学年 第1学年	教科 生活科	児童数 15人	実施時間等 1時間×3日
<p>目標</p> <p>・「男らしく」「女らしく」に縛られず「自分らしく」いることの素晴らしさに気づく。</p> <p>主眼・目的</p> <p>2学期に「みんなの『いいな』を伝えよう」の活動を行い、これまで気づいていなかった自分のよさや、自分が家族に温かく見守られ大切にされている存在であることに気づくことができた。この活動をもとに、3学期は偏った見方に縛られず「自分らしく」いることの素晴らしさに気づかせたいと考え、「みっちときりー」の絵本を題材にした学習を進める。</p>			
指導過程		指導上の留意点	
<p>【第1時】 「女の子みたい」と、からからかわれたみっちの気持ちを考える。</p> <p>1. 「みっちときりー」の前半を読む。</p> <p>2. みっちの気持ちについて考える。</p>		<p>・黒板に、代表的なシーンの頁を掲示し、「女の子みたい」とからかわれ、大好きなお花と遊んだり、蜜集めをしたりすることをやめたみっちの気持ちについて考えさせる。</p>	
<p>【第2時】 「男らしい」「女らしい」について考える。</p> <p>3. 「男らしい」「女らしい」という言葉から想像することを出し合う。</p> <p>4. 「男らしい」「女らしい」と思うことについて話し合う。</p>		<p>・好きなこと、上手なこと、服装や様子などについて、「男らしい」と思うこと、「女らしい」と思うことについて出し合わせ、板書する。</p> <p>・「男らしい」「女らしい」と思うことは、どちらにも当てはまり、決められないことに気づかせる。</p>	
<p>【第3時】 「自分らしい」について考える。</p> <p>5. 「みっちときりー」の後半を読む。</p> <p>6. 自分のことについて書く。</p>		<p>・黒板に、代表的なシーンの頁を掲示し、みっちの行動や気持ちの変容をみんなで確かめる。</p> <p>・「好きなもの」「好きなこと」「苦手なもの」「苦手なこと」「大切にしているもの」「やってみたいこと」等について自由に書かせる。</p>	

<p>7. 書いたものをもとに、交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みっちときりーのように、自分の気持ちを伝えたり、たくさん話をすることが大切だということを確認、各自が書いたものをもとにして交流させる。 ・それぞれ同じこともあれば、ちがっていることもあり、それが「自分らしい」ことであると気づかせる。
---------------------------	--

■ 児童の反応・感想

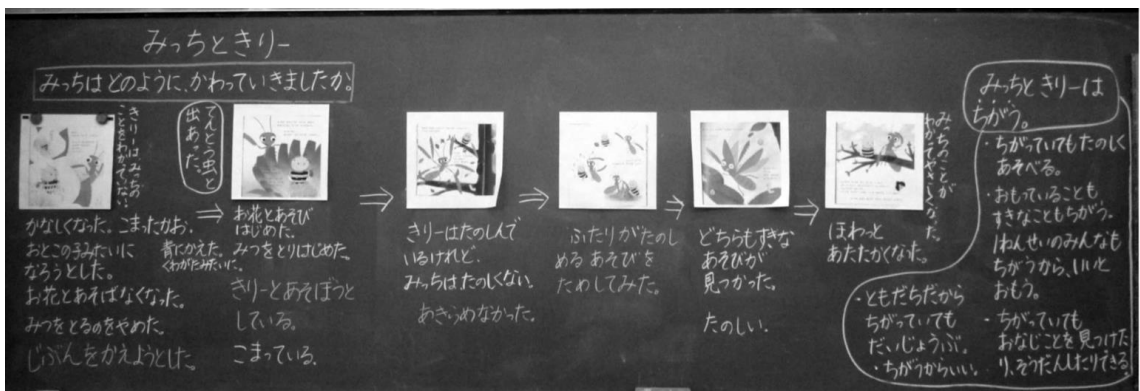
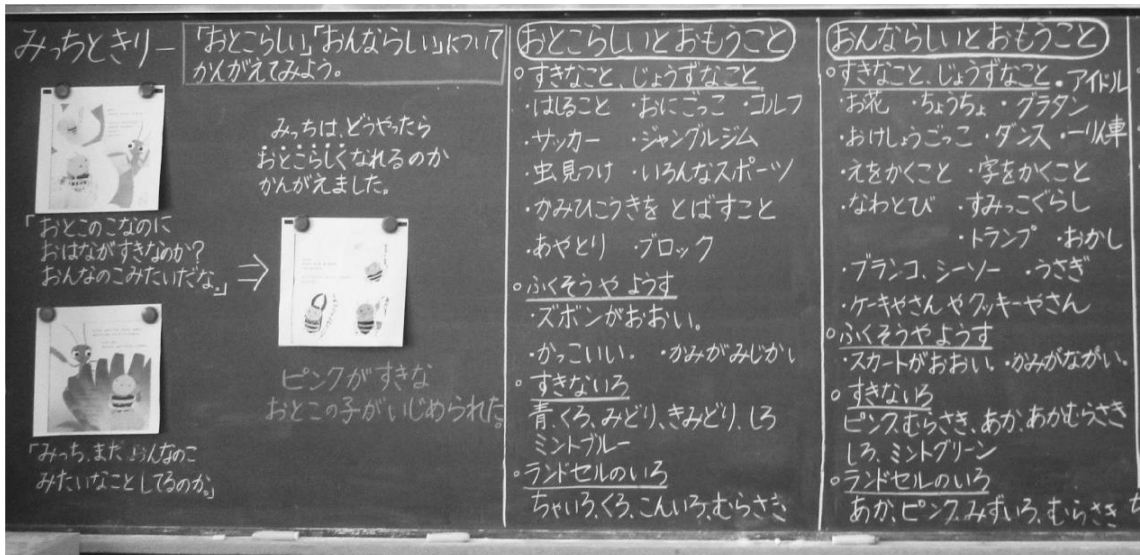
<p>○「男らしい」と思うこと (好きなこと、上手なこと) ・はしること ・おにごっこ ・ゴルフ ・サッカー ・ジャングルジム ・虫見つけ ・いろんなスポーツ ・かみひこうきをとばすこと ・あやとり ・ブロック (服装や様子) ・ズボンがおおい ・かっこいい ・かみがみじかい (好きな色) ・あお ・くろ ・みどり ・きみどり ・しろ (ランドセルの色) ・ちゃいろ ・くろ ・あいろ ・むらさき</p> <p>○「女らしい」と思うこと (好きなこと、上手なこと) ・お花 ・ちょうちょ ・グラタン ・おけしょうごっこ ・ダンス ・一りん車 ・えをかくこと ・字をかくこと ・なわとび ・すみっこぐらし ・トランプ ・おかし ・ブランコ、シーソー ・うさぎ ・ケーキやさんやクッキーやさん ・アイドル (服装や様子) ・スカートがおおい ・かみがながい (好きな色) ・ピンク ・むらさき ・あか ・あかむらさき ・しろ ・ミントグリーン (ランドセルの色) ・あか ・ピンク ・みずいろ ・むらさき ・ちゃいろ</p> <p>○自分はこう思う ・おとこの子でかみがながい人があるし、おんなの子でかみがみじかい人もいる。 ・おとこの子もお花が好きな人がある。 ・ズボンは、おんなの子もはいている。 ・ブランコ、シーソーは、おとこの子もすき。 ・おんなの子もはしるのがすき。 ・おんなの子も虫がすき。ブロックもすき。 ・おかしは、1ねんせい みんなすき。 ・おにごっこは、おんなの子もすき。 ・トランプは、おとこの子もしている。 ・字をかくことやあやとりは、みんなすき。 ・おとことか、おんなとか、きまっていない。</p> <p>○「みっちときりーはちがう」ことについて ・ちがっていてもたのしくあそべる。 ・おもっていることも、好きなこともちがう。 ・1年生のみんなも、それぞれちがうからいいとおもう。 ・ちがっていても、おなじことを見つけたり、そうだんしたりできる。 ・ともだちだから、ちがっていてもだいじょうぶ。 ・ちがうからいい。</p>
--

III. 小学校での活用事例

■ 先生の感想・考察

- ・話し合いから、好きなこと・もの、服装や様子など、これまでなんとなくイメージを持っていたことが、男だからとか女だからとか決めてしまうものではないことに気づいていけた。2学期に行った児童会の取組「ピンクシャツデー」のことを思い出し、「ピンクのシャツを着ていてドッジボールに入れてもらえなかった話と一緒に。」と話す子もいた。
- ・この絵本で考えた「男らしい」「女らしい」だけでなく、「〇〇らしい」という表現は、うれしく受け止められることもあるが、決めつけたイメージに縛られ悲しい思いや悔しい思いに繋がることもあるかもしれない。だからこそ、「自分らしさ」「その人らしさ」を大事にしてほしいと思う。そして、人と違うことはおかしいことではなく当たり前のことで、自分の世界が広がる素敵なことなんだということも忘れないでいてほしいと願う。

■ 板書から




■ たんぽぽ

取組の内容は、おたよりとして家庭へも紹介された。

たんぽぽ

中瀬小学校 1年生
2023. 1. 17
NO. 111

「みっちときりー」の学習から①

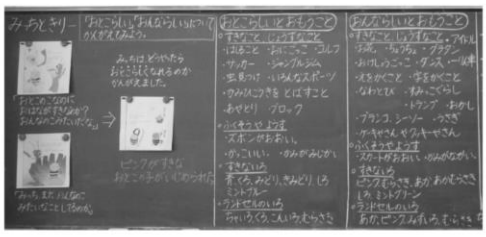


2学期の『みんなの』を伝えよう。の活動を通して、これまで気づいていなかった自分のよさや、自分が家族に置かれ大切にされている存在であることに気づくことができました。この活動をもとにして、3学期は、偏った見方に縛られず「自分らしく」いることの素晴らしさに気づかせたいと考え学習を進めています。この学習では、絵本「みっちときりー」を題材にしています。あらすじは次の通りです。

みっちは、お花が大好きで、いつもお花の葉を集めることを楽しみにしています。ある日、友だちのきりーに「男の子なのに花が好きなんで女の子みたいだ」といわれ、みっちは自分のことを恥ずかしく思い憂なのだろうかと不安になります。そして、みっちはお花遊びや葉集めをやめてしまいます。けれども、気持ちはやもやするばかりです。てんとうむしに「笑っているみっちが好きななあ」と言われ、みっちは自分が笑っていないことに気づきます。それから、**男らしく**、**女らしく**なんて気にせずに、**自分らしく**ようと決意します。

再び、きりーに「女の子みたい」と言われますが、大好きなきりーと遊びたいという思いもあってみっちはきりーの好きな遊びをしよう。ともちがけます。けれども、ちっこも楽しくありません。そこで、二人の好きな遊びを探そうといふんことをして遊ぶうちに、二人が楽しめる遊びが見つかります。その時、きりーが「笑ってるみっちがいっぱいいい」と言います。二人は、いっぱい話をして遊んでいるところやちがっていることに気づきます。そして、ちがっていることはすてきなことだとわかり、**みっちはみっちらしく、きりーはきりーらしく**いられることが一番なんだと思うようになります。

お話の前半で「**男らしい**」「**女らしい**」という見方があり、この言葉から想像することを出し合って話し合いました。その学習で、子どもたちが発言したことは裏面の通りです。



「男らしい」「女らしい」と思うことについて考えました。

みっちは男らしく

この話し合いから、男らしいと思うことは女の人も当てはまることや、女らしいと思うことが男の人にも当てはまることわかりました。そして、好きなことや好きなもの、服装や様子など、これまで何となくイメージをもっていただけ、男だからとか女だからとか決めてしまうものではないことに気づいてきました。また、2学期に行った見聞会の取り組み「ピンクのシャツを着てドッジボールに入れてもらえなかった話と一緒に」

と話す子もいました。

次の学習では、絵本の「みっちらしい」「ぼくらしい」という言葉から、「自分らしさ」について考えていきます。

たんぽぽ

中瀬小学校 1年生
2023. 1. 18
NO. 113

「みっちときりー」の学習から②

お話の後半で、みっちときりーがいろいろな遊びをしていくうちに、互いに楽しいと感じる喜びを見つけることができました。その時、二人は笑顔になり嬉しい気持ちを味わいます。二人は、自分の好きなことや大事にしていることをいっぱい話し、遊んでいるところやちがうところがあることを知り、人とちがうことはおかしいことではなく素敵なことだと気づきます。そして、自分らしくいることが一番いいことなんだと思えるようになります。

この学習で、子どもたちは、次のような考えをもちました。

- ・ちがっていてもたのしくあそべる。
- ・おもっていることも、好きなこともちがう。
- ・1年生のみんなも、それぞれちがうからいいとおもう。
- ・ちがっていても、おなじことを見つけたら、そうだしりできる。
- ・ともだちだから、ちがっていてもだいじょうぶ。
- ・ちがうからいい。

次の時期には、「自分らしい」ということについて考えました。まず、自分の好きなことやもの、大事にしていることやものなどを書き出してみました。それらを、みっちときりーと同じように交流しました。この活動から、みんなそれぞれ同じこともあればちがっていることもあることがわかり、それが「自分らしい」ことだと確かめることができました。そして、ちがっていても、お互いに笑顔になることを見つかるために、みっちときりーのように自分の気持ちを伝えたりたくさん話をしたりすることが大切であることについて話し合いました。

この絵本で考えた「男らしい」「女らしい」だけではなく、「○○らしい」という表現は、うれしく受け止められることもあります。決めつけたイメージに縛られ悲しい思いや悔しい思いにつながることもあるかもしれません。だからこそ、「自分らしさ」「その人らしさ」を大事にしてほしいと思います。そして、人とちがうことはおかしいことではなく当たり前のことで、自分の世界を広がる素敵なことなんだということも忘れずにいてほしいと思います。

Ⅲ. 小学校での活用事例

3. 松阪市立第四小学校 第2学年

概要：第2学年の学習にて、2時間の指導案のうちの1題材として活用した。

学校名 第四小学校		担当者 南川 紗輝	
学年 第2学年（1クラス）	教科 生活科	児童数 28人	実施時間等 1時間（別題材1時間）
<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「男らしさ」や「女らしさ」など、自分たちの中に性別に対する固定的なイメージがあることに気づく。 ・人を性別のカテゴリーに分けるのではなく、それぞれの自分らしさを大切に、互いに認め合うことの大切さに気づく。 <p>主眼・目的</p> <p>休み時間は、男の子と女の子で別の遊びをする。男の子は外で鬼ごっこなどをし、女の子は教室でお絵描きやおままごとなどを行っているところをよく見る。遊んでいる場面で、男の人がスカートを履いている絵を書き、周りの子がそれを面白がるといったことがあった。「スカートを着たい男の人もいるよ」と話すと、「そっか」と少し気がついた。その子も、周りの子も純粋に面白いことだと思ってとった行動であるが、これまでの生活の中で子どもたちに男女の固定観念があるように感じた。それに気づき、自分や友だちの自分らしさを大切にできる子どもたちの心を育てたい。</p>			
指導過程		指導上の留意点	
<p>1. 本時のめあてをとらえる。 みっちの気持ちをかながえよう。</p> <p>2. 1～4頁の読み聞かせを聞く。（みっちが好きなことを我慢して、男の子らしくしようとする場面まで）</p> <p>3. 「みっちっておとこのこなのにおはながすきなのか？ おんなのこみたいだなー。」と言われたみっちの気持ちを考える。</p> <p>4. 好きなことを我慢しているみっちを見てどんなことを感じたか考える。</p> <p>5. 5～19頁の読み聞かせを聞く。（きりーがみっちのよさに気がついた場面まで）</p> <p>6. 「ぼく、みっちのことおんなのこみたいでかわるいとおもってたけど、ちがってた。わらってるみっちがいちばんいいよ。」ときりーに言われたみっちの気持ちを考える。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵をモニターで拡大して映し、話の内容が理解できるように、場面を区切ってゆっくり読む。 ・きりーの言葉をもし自分が言われたらどう思うか考える。 ・自分らしくいないで、好きなことを隠して生活するようになったみっちについてどう思うか考える。 ・みっちのすきなことも、きりーの好きなこともそれぞれあることをおさえる。 ・きりーがありのままの自分を認めてくれたことで、みっちはどのように感じるのか、考えたい。 ・言われてからはそれぞれが自分らしく過ごすことができたことを確認する。 	

<p>7. 20～22 頁の読み聞かせを聞き、どうすれば自分や相手がなかよくなれるのか考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで出た意見を振り返り、みっちにも、きりーにもできることがあることを確認する。 ・仲良くなりたいみっちの気持ちをとらえ、自分が行動するとしたら、どんなことをするとよいか、考える。 ・みっちの立場ときりーの立場で、どのようにすればよかったか考える。
---	--

■ 児童の反応・感想

<p>○「みっちっておとこのこなのにおはながすきなのか？おんなのこみたいだなー。」と言われたみっちは、どんなことを思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はずかしくて自分のすきなことを隠したくなる。 ・みんなとちがってへんなのかもしれないと思う。 ・すきなことなのに、だめだと言われているみたいでつらい。 ・そんなこといわなくてもいいのに。 ・自分が好きなことをしているだけなのに、そんなことを言われたらめいわく。 ・自分は女の子だと思っていないのに、言われるとそう思えてくる。 ・自分が男の子だと思っているのに、女の子だと言われるのはいや。 ・きりーには女の子らしいところはないのかな。 ・きりーも言われたことをしているかもしれないのに。もしやったならみっちの気もちをぜったいにかんがえていないと思う。 ・きりーはいじわるだと思う。 <p>○すきなことを我慢しておとこのこらしくしようとするみっちをどう思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きりーに言われたから自由にみつをすえないし、お花とおどれなくてかわいそう。 ・みっちは男の子でも、みっちしかもっていないやさしさをもっているから、きりーの一言でそれをつぶさないでほしい。 ・みっちには個性があつていいのに、きりーは女の子といっているのがかわいそう。 ・みっちみたいじゃないみたいだと思った。 ・たのしくないと思う。 ・我慢してすごしているのは、いやな生活になると思う。 ・きりーに女の子みたいって言われたことがはずかしいし、いやだから男らしくしてしまったと思う。 ・きりーの言葉のせいで、みっちの心がかわってしまったんだと思います。みっちも本当はいつもあそんでいるお花の友だちをきずつけないのにそうになってしまうのはかわいそう。 <p>○「ぼく、みっちのことおんなのこみたいでかっこわるいとおもってたけど、ちがってた。わらってるみっちがいちばんいいよ。」ときりーに言われたみっちはどんなことを思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お花を好きな自分でいていいんだと思う。 ・自分のことをわかってくれて嬉しい。 ・きりーのことも知ることができて、仲良くなれたからよかった。 ・そうやって言ってくれてうれしい。
--

Ⅲ. 小学校での活用事例

- ・むねのあたりがほわっとあたたかくなる。
- ・やっぱり自分のやりたいことをやったほうがいいなと思った。
- ・いっしょにあそんだり、話したりしてよかったとおもう。
- ・言われたら元気が出てくる。
- ・いやだった気もちがなくなっていったと思う。

○みっちときりーは自分やみんなが笑顔で過ごせるためにはどうすればよかったかな。

(みっち)

- ・いっしょにあそんでみよう!といえればいい。
- ・じぶんのすきなものはすきだときりーにもしっかりつたえたらいい。
- ・きりーに言われても男らしくってかえようとせずに、じぶんのやりたいことをしていてもいい。
- ・お花をもっとすきになるといいと思う。
- ・お話みたいにどっちもがすきなあそびをしようと思った。
- ・みっちはみっちらしくするのが一ばんいいと思う。
- ・きりーとほかのあそびをしてみたり、話してみたりする。

(きりー)

- ・人のこせいをうばうようなわる口や言い方をしてはいけないと思う。
- ・さいしょにいやなことを言ったけど、いいこと(じぶんらしくていいねなど)いったほうがいい。
- ・ひとがいやだと思うことやきめつけのこぼをいわない。
- ・みっちに女の子みたいって言わなければ、みっちとたのしくあそべたと思う。
- ・お話でも、「ごめん。」とあやまれたからよかった。
- ・できるだけ早く、「女の子みたいって言ってごめんね。」とってあげたほうがいい。

■ 先生の感想・考察

- ・前半では、きりーに「女の子みたい」と言われたときの気持ちや、好きなことを隠そうとするみっちときりーに自分らしさを認めてもらえたみっちの気持ちに寄り添って理解することができた。言ってしまったきりーに対して、女の子みたいなどころがあるかもしれないと考え、自分のことは棚に上げていて、相手のことを考えていないと感じた子もいたようであった。
- ・子どもの言葉から、「みっちには個性があっていいのに、きりーは女の子といっているのかわいそう。」「みっちみたいじゃないみたいだと思った。」と、みっちの個性に触れる発言があった。個性という言葉の意味がわからない子が多かったが、人それぞれ持っているよさ、自分らしさのことだと確認することができた。
- ・後半では、みっちの立場ときりーの立場でどう行動するともっと良かったのか考えた。きりーは、みっちに対して言ってしまった言葉があったので、比較的考えやすかったが、みっちは言われてしまった側なのでどうすればいいか考えにくそうにしていた。ここでは、自分らしさを大切にしていけるとよいことに気がついてもらいたかったので、「みっちは我慢していたけど、そのほうがよかったのかな」と問かけると、そうではないことに気がつくことができた。
- ・自分の思いを出したり、相手の思いを聞いて知ること、違いがあることに気づいたり、違いに共感したり、相手が受け止めてくれたことで、それで良かったと自信や自己肯定感につながり、それらの経験を重ねて自分らしさに気づいていけるのだと思われる。また、相手の自分らしさを認めることにもつながっていくのだと思われる。
- ・今後、自分やクラスの友だちの個性を知ることができる活動や刷り込まれた固定観念に気づいて考えることを通して、自分らしさや相手の自分らしさを尊重できるよう、継続して取り組んでいきたい。

■ 他時間の取組の紹介

全2時間の指導計画を立案いただき、うち1時間で「みっちときりー」の取組をしていただいた。
別時間(1時間)の取組についても参考に報告いただいた。

だれのせんたくもの

6人家族(みっちゃん、弟、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん)の洗濯物はどれがだれのものなのか考えた。

エプロン

おかあさん — 料理や家事をよくするから。花壇をいじったりすると思うから。

おばあちゃん — 昔料理をよくやっていたから。

サッカーユニフォーム

弟 — サッカーを習っていそう。サッカー選手になりたいかも。やりたいと言っていそう。

お父さん、おじいちゃん — わかいころにやっていたのかも。思い出として持っているんだと思う。

ピンクの服

みっちゃん — 着てそうだから。女の子はピンクが好きだから。

水色の服

弟 — 男の子は青色が好きだから。

子どもたちの中には、料理は女の人とするイメージがあり、サッカーにも、男の子とするスポーツだというイメージがあるようだった。色に関しても、これまでの経験から男の子らしい色、女の子らしい色となんとなく刷り込まれているようだった。だれの洗濯物が交流している場面で、「エプロンお父さんのかも!!料理するお父さんもおるから。」と発言する様子もあった。だれの洗濯物だったのかわかると、「うちのお父さんもピンク色がすき。」「男の人もピンクの服着てるのみたことある。」「お父さんエプロンしとる。」と新しい見方ができるようになった子もいた。「サッカーは男の人の方がする人が多い」「料理はお母さん」「ピンクは女の子の色、青は男の子の色」など固定観念はあるが、「女の人のはしてはいけないか、男の人は・・・」と尋ねると、人それぞれ好きなことをしてもいいことや、自分たちがきめつけてしまっているだけだと感じ、気がつくことができた。

Ⅲ. 小学校での活用事例

4. 名張市立錦生赤目小学校 第3学年

概要：「自分らしさは自分が決める」をテーマに5時間の総合学習のうち2時間で活用した。

学校名 錦生赤目小学校		担当者 岩垣 淑美	
学年 第3学年1組	教科 総合的な学習の時間	児童数 26人	実施時間等 2時間
<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分にも友だちにも好きなことや好きなのところがあることを知り、お互いの思いを大切にしながら一緒に活動する方法を自分なりに考えることができる。 <p>主眼・目的</p> <p>個性豊かで行動力のあるクラスだが、人間関係が固定されてきていることで、つらい思いを持っている子がいるように見受けられる。自分が嫌なことや困っていることを気持ちよく相手に分かってもらえるように伝える力が必要だと感じた。この絵本を通して、お互いの好きなことを大切にしながら共に過ごす中で、違っていても大丈夫という安心感があれば、いつも友だちと同じことをしなくても、いつも一緒にいなくても、お互いの好きなことを尊重しながら「なかま」と感じることに気づいてほしい。また、自分が心の中で本当に思っていることが伝えられると、とても気持ちが楽になることも感じてほしい。この絵本のあとがきに、「あなたは、あなたの思うままにいるのが、いちばん。それが、『あなたらしい』ってこと。」とある。自分らしさは人から決められるのではなく、自分が決めていいのだと感じてほしい。</p>			
指導過程		指導上の留意点	
<p>【事前のアンケート】※詳細は後に記載</p> <p>NHK for schoolの「u&i 男らしく、女らしくがいいの？」を見て、質問に答える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「男らしい」「女らしい」とはどういうこと？ あなたは「男／女らしい」にあてはまる？ 「自分らしい」とはどんなこと？ 等 <p>1. 絵本の題名を伝え、読み進みながら考える。 「男の子なのに…」と言われたみっちはどうしたでしょう。</p> <p>2. きりーと一緒に遊びたいみっちはどんなことを提案したでしょう。</p> <p>3. 考えを発表し合った後、絵本を読み進める。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ジェンダーについて、児童それぞれがどのように感じているかを知る目的で、アンケート形式で聞いた。 選択肢から選び、なぜそう思うか理由も考える。 ア 遊びをやめる。 イ 気にせず遊びを続ける。 ウ その他 「きりー、ごめんね。でもぼく、やっぱりいっしょにあそびたいから（ ）してみない？」と、提案する内容を理由と共に考える。 絵本では、みっちの提案が二人の好きな遊びを探すことであることを伝える。 	

4. 感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本に出てきた好きな場面、心に残った場面を思い浮かべながら、それをもとに感想を書く。 ・後で絵本の場面をふりかえることができるようタブレットで絵本を見られるようにしておく。
-----------	--

■ ワークシート

<p>みっちときりーの絵本から学ぼう</p> <p>名前()</p> <p>「きりー、ごめんね。でもぼく、やっぱりいっしょにあそびたいから、()</p> <p>してみない？」</p> <p>考えた理由</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>	<p>感想を書こう</p> <p>名前()</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>
---	--

■ 事前のアンケートより、多かった意見の抜粋

- ①「男らしい」、「女らしい」とはどういうことでしょうか？
男らしい：かっこいいことが好き 女らしい：かわいいことが好き
- ②「男らしい色」、「女らしい色」はどんな色？
男らしい色：青 女らしい：ピンク
- ③「男らしい仕事」、「女らしい仕事」はどんな仕事？
男らしい仕事：会社員、警察官 女らしい仕事：パティシエ
- ④「男らしい性格」、「女らしい性格」ってどんな性格？
男らしい性格：やんちゃ 女らしい性格：やさしい
- ⑤「男らしいおもちゃ」、「女らしいおもちゃ」ってどんなおもちゃ？
男らしいおもちゃ：ゲーム 女らしいおもちゃ：ぬいぐるみ
- ⑥あなたは、①から⑤までの〇〇らしさにあてはまっていますか？
ほぼあてはまる：7人 あてはまらない：9人 人それぞれだ：4人 分からない（無回答）：6人
- ⑦どうして①から⑤までのように思いましたか？
世の中のイメージ、友だちに言われた、見た目で決めつけた、それがにがいそうだから

Ⅲ. 小学校での活用事例

- ⑧「男らしい」、「女らしい」で分けられていることでおかしいなと思ったことはありますか？
男がこう女がこうと思っているのがおかしい。雑誌に男の子は泣かないとあったのは区別だと思った。サッカーをしているのが女らしくないと思ったことがある。
- ⑨「自分らしい」とはどんなことでしょうか。
自分の好きなことや好きなものをもつ。みんなが好きな色の服を着られて、好きなおもちゃで遊べて自分の個性を出せること。
- ⑩「自分らしく」いるためにはどうすればいいでしょうか。
自分の好きなことをやればいい。周りを気にせずにあるのままの自分でいること。自分の好きを持つ。友だちの好きなことを反対しない。

■ 児童の反応・感想

- ・おもしろい話だった。
- ・(みっちときりーが) なかなかおりでできてよかったね。
- ・わらうのをわすれていたときのみっちが心に残りました。
- ・きりーはいいところも悪いところもあってきりーらしいと思いました。みんなの意見がいっぱいあってびっくりしました。
- ・みっちときりーは、さいしょはなかよくないけど、けっきょくさいごはいっしょになかよく遊んでいた。
- ・みっちはきりーの好きな遊びをしたけれど、みっちにはあわなかったけれど、みっちは勇気を出して二人とも気に入る遊びをさがしたのがよかった。
- ・きりーが「ひとりであそぶのがすきなんだ。」と言ったことを大切に時々遊ぶことをみっちがやっているのだからいいなと思いました。
- ・みっちときりーはときどきあそびます。でもいつもいっしょではありません。自分だけが好きな遊びもやりたいから。それでもたいせつななかま。というところが大切に、友だちになれてよかったなと思いました。
- ・みっちがきりーに女の子みたいと言われても友だちになろうと思えたみっちがすごいと思った。
- ・みっちはきりーは好きなものはちがうけれど、楽しいことをさがしたらどっちも楽しいことがあるんだと思いました。
- ・みっちはきりーと遊びたいけど、はじめは言えなくてそれでもみっちは勇気をふりしぼって、「きりー、ぼくと遊ぼうよ。」と言ってすごいなあ〜と思いました。ぼくもみっちみたいになりたいです。
- ・女らしく男らしくなんて関係なく、自分らしくが一番いいんだなと思いました。
- ・この話を聞いて、自分が好きなことをひていされても自分が好きなことをいっぱいしようと思った。
- ・男の子らしく、女の子らしくは関係なく自分の好きなことをしたらいい。好きなことをしている人に「〇〇みたいでかっこ悪い。」などと、相手の人をいやな気持ちにさせることは言わない。
- ・女の子、男の子なんか関係なく自分のしたいことをやめるのはもったいないから、だれにひていされても自分の好きなことはやめないのが一番と思いました。

■ 先生の感想・考察

このお話から、二人が自分の好きなことや大切にしていることを伝え合い、違っていても大丈夫、違うことがすてきであること、きりーのように、自分が間違っていたことに気づき変わっていく姿を見て、変わらなければならぬのは周りであることにも気がついてほしいと願い授業をしました。遊びという身近なテーマであったせいか、みんなよく考え、自分の言葉で話したり書いたりしてとてもたくさんの考えが出されました。

■ 他時間の取組の紹介

全5時間の指導計画のうち、2時間で「みっちときりー」の取組をしていただいた。
別時間の取組についても参考に紹介いただいた。

(2時間) 自分や友だちの好きなこと、好きなところを考え、「わたしはだれでしょうクイズ」をしよう。

- ・ある子の名前が書かれた紙にその子のいいところを3つ書く。
- ・そのいいところをヒントとして読み上げ、誰のことかを当てる。

(1時間) 自分の「ええやん、そのまま」を考えよう。

- ・絵本『ええやん そのままで』(解放出版社)を読む。
- ・オリジナルの「ええやん そのままで」を考え発信する。

■ 題材の紹介

NHK for school 「男らしく、女らしくがいいの？」

NHKのEテレ「u&i」で放送された番組。アイは野球少年の一方、手芸などカワイイものが大好き。でもそれは「男らしくない」と思っています。それがユウに知られたのではないかと心配でたまりません。シツチャカとメツチャカと一緒に、「ココロのでんわ」で、ユウの本音を聞くことができました。

URL：https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005190213_00000

放送日：2022年11月30日、12月7日、12月14日

※書籍版あり【12頁】参照



絵本：「ええやん そのままで」

「ええやんそのまま」「あんたはあんた」と、いろんな場面でリズムカルに語りかける。「歯が抜けても平気」だし「長い鼻も丸い鼻も大切な鼻」で「体の色もいろいろ」「髪の毛がなくてもお洒落する」多様な“わたし”を楽しみながら受け入れられるようになり、多様な他者も認められるようになる。シンプルなタッチ、カラフルな色遣いで人気があるトッド・パールの絵本を翻訳。

作：トッド パール 訳：つだ ゆうこ 出版社：解放出版社 発行：2008年12月 ISBN：9784759222463

■ 市の男女共同参画センターとの連携

名張市男女共同参画が発行する「つうしん」にて、事例を紹介いただいた。

※詳細は、【報道記事等 67頁】に掲載。

Ⅲ. 小学校での活用事例

5. 紀宝町立相野谷小学校 第2・3学年

概要：第2・3学年の複式学級にて、学年ごとに分けて取り組んだ。

学校名 相野谷小学校		担当者 山西 雄貴	
学年 第2・3学年 (複式学級)	教科 特別活動	児童数 第2学年 9人 第3学年 6人	実施時間等 1時間×2回 (学年ごとに実施)
<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の中に女の子らしさ、男の子らしさという思い込みがあることに気づく。 ・みっちときりーが仲よくなれたきっかけについて考え、自分が友だちと仲よくなるためにできることを考える。 <p>主眼・目的</p> <p>クラスには、自分の好きなことを言えない児童やそれを受け止められない児童が見られる。今回の授業では、互いのちがいを認め合い、自分らしくいられることの大切さを伝えたいと考えた。</p>			
指導過程		指導上の留意点	
<p>1. 読み聞かせ</p> <p>みっちは次の日からどうしたでしょう。</p> <p>①みっちがきりーに「女らしい」と言われた後</p> <p>②みっちが自分らしくいれればいいと気づいた後</p> <p>2. 主題を読み取る</p> <p>①きりーは、みっちのことをどう思っているか。</p> <p>②みっちときりーはどうして仲良くなれたのか。</p> <p>3. あとがきをよむ</p> <p>4. ふりかえり</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを用いて絵を電子黒板に映す。話の途中でみっちの気持ちの変化を予想する ・みっちのことを「女らしい」と思っていた事に注目させ、「女らしい」とはどういうことなのかを考えさせる。 ・みっちときりーが、それぞれの好きなものを出し合う中で、お互いにとって楽しいことを見つけていった様子を読み取る。 ・好きなこと嫌いなことは人それぞれ。自分らしくいられること、それを認め合えることが大切。 ・「友だちともっと仲良くなるためには、」の続きを考えさせる。 ・みっちときりーが仲良くなった様子と自分の生活をつなげられるようにする。 	

■ 児童の反応・感想

- ・ゆるすこととみとめること
- ・友だちともっと仲よくするために色々な人にやさしくすると、友だちとなかよくなるために、人にやさしさを使える
- ・友だちともっと仲よくなるために自分からやさしくしてあげる
- ・友だちと仲良くなるためにみんなと仲よく遊んだり、やさしくしたりする
- ・友だちと仲よくなるためにたくさん話したりしたら良いと思います
- ・友だちと仲よくなるために、いろいろ話してみる
- ・友だちともっとなかよくなるために「好きなこと言い合いゲーム」をするといいと思う
- ・ぼくも友だちも好きなことをする
- ・友だちの好きなもののお話をする
- ・相手の好きなところを見つける

■ 先生の感想・考察

今回第2・3学年の複式学級で授業をわけて行った。

第2学年、第3学年でそれぞれ学年によって反応のちがいがよくあらわれた。第2学年では、「女の子らしい」という言葉に対し、男の子でも女の子でも関係なく、自分の好きなことは好きにしてもよいという考えが多く出た。みっちの好きなことを否定するきりーの発言に注目して、おかしいといえる児童も多く見られた。第3学年では、「女の子らしい」「男の子らしい」という言葉に固定観念をもち、なかなか抜けきれない様子が見られた。「男の子が女の子の服装をするのは」という発問に、笑う児童がいる中、自分の考えを悩ませる児童の姿も見られた。最後のふりかえりでは、作品の内容にふれて書ける児童もいたが、そうでない児童も多く見られた。

作品は、低学年児童にとって読みやすい内容で、低学年対象ぐらいでちょうどよいかなと思う。

自分の好きなもの、嫌いなものを正直に言えない児童が見られる中、自分と友だちのちがいを認め合えることの大切さを伝えていくよい教材だったと思う。

Ⅲ. 小学校での活用事例

6. 津市立新町小学校 特別支援学級

概要：特別支援学級の国語科にて絵本を読んで感想を書いた。

学校名 新町小学校		担当者 倉田 佳奈	
学年 特別支援学級（第1・2・4学年）	教科 国語	児童数 6人	実施時間等 1時間
主眼・目的・目標 ・自分らしさを考える			
指導過程		指導上の留意点	
<p>1. イラスト（顔だけ・全身）を見せ、「男の子らしさ」「女の子らしさ」を考える。 （「男の子」「女の子」という言葉が出てくる） →「なぜそう思うのか」を問う。</p> <p>2. 絵本「みっちときりー」を読む。</p> <p>3. 感想交流する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「男の子らしさ」「女の子らしさ」とはどのようなものとして子どもたちが捉えているかを確認する。 ・途中で子どもがつぶやく言葉は、読み聞かせ後の感想交流の支援に役立てられるよう、覚えておく。 ・それぞれに感想を用紙に記入させる。自分で書くことができない子には個別に聞き取りを行い、教員が朱書きしたものをなぞるよう指示する。 ・自分の考えや感想を自由に書くことに抵抗のある子には「どんな場面覚えている？」「1番好きな場面は何？」などと具体的に問い、スムーズに書き進められるよう支援する。 ・「自分らしさ」を大切にすることをおさえない。 	

■ 児童の反応・感想

- ・男らしく女らしくはいけない。自分らしくがいい。
- ・「みっちときりー」をよんで、わたしは自分のいけんは大切だと思いました。みっちは、きりーとなかよくなりたがっていました。きりーは女の子みたいな男の子がいてもへんじゃないことに気づいた。
- ・自分らしく生きる。男も女も気にしない。男の子がお花を集めるのもいい。自分のやりたいことをやりながら生きる。相手の気持ちも考える。自分のやりたいこともやる。
- ・男だって花が好きだし、女の子だって空手やサッカーや野球もする。自分がやりたいことをやってもおかしくない。
- ・LGBTQ の話と同じだと思った。
- ・きりーみたいなことを言ってしまったことがあるなと思い出せた。髪が長い男の人がいても別にいいなと思えるようになった。
- ・がまんして遊ばなくてもいいと思った。
- ・友だちに遊びに誘われたとき、ことわってもいいと思った。次の約束をしたらいいと思った。
- ・男の子らしく、女の子らしくを気にしなくていいというところが、よかった。
- ・自分がすきなかみの毛や服をしてもいい。まわりの人は関係なくて自分がすきなようにしたらいい。

■ 先生の感想・考察

LGBTQ に関する学習には学校全体として取り組んでいるが、なかなか特別支援学級の子どもたちにとっては難しい内容のものであると感じていた。「みっちときりー」の絵本は、登場人物が虫や花などで身近なものだったので、親しみやすく、イラストもかわいいので、子どもたちが興味を示し、さまざまな反応がみられた。「自分らしさ」を大切にする学習として、とても有意義であった。

取組のあともクラスの書棚に絵本をおいて、普段の生活でも読み聞かせをしている。

Ⅲ. 小学校での活用事例

7. 津市立北立誠小学校 全学年

概要：朝の読書の時間での取組として、秋の読書週間中に全クラスで視聴した。

学校名 北立誠小学校		担当者 山川 みなみ	
学年 第1～6学年	教科 朝の読書の時間	児童数 464人	実施時間等 各クラス（10～15分）
主眼・目的・目標 <ul style="list-style-type: none"> ・本を読む楽しさに気づくことができる ・お話を通して“自分らしさ”や“人との関わり”について考えることができる 			
指導過程		指導上の留意点	
<p>教員から児童に、絵本の読み聞かせを行う「おはなしのプレゼント」として、読み聞かせの動画を第1学年から第6学年までの全学級で視聴した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員が絵本を読む様子を動画に撮影する ・各クラスで、動画をテレビモニターに出力し、視聴する 		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で面前での読み聞かせができないため動画を使用することとした。 ・特に、登場人物の表情の移りかわりに着目してほしいと考え、できるだけ画面いっぱいに絵が映るように工夫した。 ・絵本についての詳しい解説は動画では行わず、読み聞かせで子どもたちが得た気づきを、子どもたちなりの言葉で表現できるようにした。 	

■ 児童の反応・感想

通常、朝の読書の時間では感想等を聞いていないが、今回は第1学年の1クラスからフィードバックとして感想を提出いただいた。

<ul style="list-style-type: none"> ・きりが、ちゃんとあやまったのがすごいと思います。 ・わたしは、みっちときりがさいごなかなおりしたところがすてきでした。 ・わたしは、みっちときりがなかよくなれてよかったとおもいました。 ・さいごは、二りがたのしいあそびを見つけて、なかなおりしていいなとおもいました。 ・ぼくは、ミッチとキリーがいっしょになかよくあそんでいるところがすてきだなおもいました。 ・さいしょは なかがわるかったけど、なんどもなんども二りがすきなあそびをさがして、やっと二りのすきなあそびが見つかってよかったなとおもいました。ともだちは、ほんとうにだいじなものということがよくわかりました。 ・えがとってもかわいかったです。うれしかったです。みっちとキリーのなかよくあそんでいるところがよかったとおもいました。キリーがあやまったところがえらいなっておもいました。 ・きりがあやまっているところがすてきだなおもいました。みっちが女の子でも男の子でも、どっちでもいいやっとなっているところが、すてきだとおもいました。 ・ぼくらしく、男の子も女の子もかんけいなくくらすのが、とてもいいとおもいます。たのしくあそべるのが、いちばんいいことだとおもいます。
--

-
- ・男の子らしさ、女の子らしさは、かんけいなく、人がすきなことは、それぞれということがわかります。
 - ・男の子らしさ、女の子らしさは、かんけいなくて、じぶんらしさをもてばいいとわかりました。

■ 先生の感想・考察



自分らしく生きることの大切さを、低学年の子どもたちが考えることは難しいように思っていたのですが、絵本を通して、おはなしの登場人物に寄りそって考えることで、自然と“自分らしさ”の良さに気付いた子どもたちが多くいて、驚きました。どちらかが相手に合わせ続けるのではなく、お互いにとっての一番を一緒に探していく姿は、友だちとの人間関係について学ぶ子どもたちに、心地よい関係を築くための手がかりとして、映ったのではないかと思います。

IV. 参考事例：イベントでの活用

1. 民間保育施設（子育てサロンあっぷる）

概要：民間保育施設で開催する「おはなし会」として実施した。

企画団体 子育てサロンあっぷる 託児ルームちゃちゃ	団体の概要 認可外保育施設 認可外保育施設・学童保育施設	担当者 小林 里枝子 (子育てサロンあっぷる)
参加者の年齢と人数 第2学年 5人、第3学年 1人、第5学年 1人 ※保育者 2人 ※参加者はチラシやSNS等で募集。		実施時間等 30分
企画の概要・目的 ・(イベントタイトル) おはなし会@子育てサロンあっぷる ・絵本の読み聞かせや簡単なクイズから、ジェンダーについて考えたり知ったりする。		
進行		注釈・留意点・工夫したポイント等
<p>事前準備</p> <p>1. おはなし会開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み手の自己紹介 ・今日の流れの説明 <p>2. 「おとこのこかな?おんなのこかな?」質問</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">おとこのこかな?おんなのこかな?</p> <p>①おはな が すきなのは?</p> <p>②くるま が すきなのは?</p> <p>③スカート を はくのは?</p> <p>④かみが ながいのは?</p> </div> <p>3. 絵本「みっちときりー」を読み聞かせる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・私たち読み手の考えを押し付けたり、誤解を与えたり、考えを強制したりする結果や原因にならないか、言葉には十分配慮する。 ・子どもたちの考えや意見をうまく引き出せるよう、読み手が事前知識を身につける。 ・クイズを作ったり出したりする際、誤解を招く内容にならないか、十分配慮する。 ・子どもたちから感想を引き出しやすいよう、伝える。 ・「答え」や「正解」という言葉を使わないようにし、子どもたちの考えを引き出すのみにする。 ・内容が理解しやすいよう、ゆっくり読む。 ・読了後、子どもたちから感想を聞く。

<p>4. 写真クイズを出す ライオン、くじゃく、タツノオトシゴ、スコットランドの民族衣装、男性アーティスト、女性俳優</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>ライオン ながいかみ<small>(たてがみ)</small>は おとこのこ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>くじゃく きれいな はね を もつ おとこのこ</p> </div> </div>	<p>・それぞれについての子どもたちの意見や感想を丁寧に受け止める。否定言葉を使わないようにする。</p>
<p>5. 「おとこのこかな？おんなのこかな？」質問</p> <p>6. まとめ・終了</p>	<p>・最初にした際との子どもたちの回答の変化やその経緯を引き出す。</p> <p>・他の子の意見を否定するなどの姿が見られた場合、仲介に入り、互いの考えを伝えあえるよう進行する。</p> <p>・終了後、普段の子どもたちの様子に変化があるか継続的に見守る。</p>

■ 参加者の反応・感想

<p>○絵本を読む前の質問</p> <p>①お花が好きなのは？「女の子！」</p> <p>②車が好きなのは？「男の子」と、ほぼ全員の意見は分かれず、元気に答えていた。</p> <p>④髪が長いのは？に対しては、「男でも女でもどっちもおるよ！」と答えた子がいた。</p> <p>○「おとこのこかな？おんなのこかな？」クイズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物など生き物に関するクイズでは、知識として知っている子が多く、スラスラ回答していた。 ・スコットランドの民族衣装では、顔の見た目ではなく、スカート、メガネなどの服装で判断していた。 ・「髪が長いから女やって！」「髪長くても男はおるって！」という子どもたちのやり取りに対し、「さっきのライオンの問題では、髪が長くても雄やって言ってたよね？」と声をかけると、「あぁー…」と考えがまとまらない姿が見られた。 ・男性アーティストの例を挙げ、「キティちゃんが好きだ」と紹介すると、驚きの声が上がっていた。 ・ミュージカル女優の例を挙げ、男性役を演じた際の写真を使ってクイズを出すと、子どもたちは答えにとっても詰まっていた。「こういう服(タキシード姿)やから男かな？」「これは化粧しとるから女や！」「でも化粧する男もおるよ！」「そうやんな！」と、子どもたち同士で意見を出し合い、考えていた。 <p>○再度、最初の質問を行う</p> <p>意見が変わらない子もいれば、「どっちでもいいんやよ！」に変化した子もいた。</p>

IV. 参考事例：イベントでの活用

■ 企画者の感想・考察

髪の長さの話になった時、すぐに「僕の周りに男の子で髪が長い子おるからなー」と発言し、すでに多様性に触れ、違和感を持っていない子がいて驚いた。

読み手は、高校生の頃髪が短かったため、よく男の子に間違えられたと話すと、とても驚いていた。その時にショックな気持ちだったことも話し、「みんなが性別の話をする時は、『みっちときりー』のお話を思い出してから話すと、私のようにショックを受ける子が少なくなるかも」と伝えたと、大きくうなづく姿もあった。

この体験だけで子どもたちの考えや感覚が変わるわけではないと思うが、これから大きくなるにつれ、いろんな人と出会った時に、この体験をふと思い出し、相手を受け入れられる子になってくれたら良いと思う。

■ 当日の様子



■ イベント告知のチラシ

こころで 多くは
子育てサロンあっぶる & 託児ルームちゃちゃ
おはなし会

はちの「みっち」とかまきりの「きりー」。
 あなたの周りにこんな人はいますか？
 あなたが「みっち」だったら？ あなたが「きりー」だったら？
 おはなしをきいて、どんな気持ちや考えになりますか？

日時：2022年10月6日（木）午後4時30分から
 場所：子育てサロンあっぶる 託児ルーム ↓

～保護者のみなさまへ～
 三重県男女共同参画「フレンドみえ」で、絵本が作成されました。「みっち」と「きりー」の隣りから、ジェンダーについて考えるお話を。
 今回は、絵本の題名を分け、子どもたちと一緒に新しい時代への考え方を一緒に学びたいという思いから、このような取り組みを企画しました。
 この絵本はフレンドみえのホームページから、デジタルブックでも見られます。
 この機会にジェンダーについて、お子さまの考え方を聴いてみてはいかがでしょうか？
 本日の取り組みは事前として取りまとめ、フレンドみえにご依頼させていただきます。
 お子さまのご依頼や年齢、開催中のお写真などを提出する場合はSNS等に掲載する場合があります。お子さまのお顔がわからないように撮影しますが、ご依頼いただけない場合は事前にお申し出ください。

■ イベント後のおたより（参加者の家庭へ）

おはなし会のようす
 2022年10月6日木、子育てサロンあっぶる託児ルームちゃちゃ おはなし会を行いました。

おはなしを聴く前に、子どもたちに質問！
 「みっち（？）は女の子、きりーは男の子、はちの女の子、はちの女の子がきりーを好きです！きりーについては、「男の子とおはちよ！」と発言してくれた子もいました。

「さっきの質問、覚えておいてね！」と声をかけ、続いて絵本「みっちときりー」の読み聞かせ！
 新着絵本を読みながら「さっきの質問が思い出せるかな、とっても真剣に聞いてくれました！」と笑顔で褒められました。

学びを深めるクイズタイム！

「おとこのこか？おんねのこか？」はどっちで聞ける？動物の性別が書かれた、「又書きを付けているから！スカートはいているから！スカートはいているから！影が長いから！」など景は白から考えられる動物、いろんな動物がいました。

クイズ
 動物の性別が書かれたおとこのこ
 キティちゃんやうさぎは、おとこのこ

くじやく
 きれいな はね を 持つ おとこのこ

タツノオトシゴ
 こどもを うむ のは おとこのこ

スコットランドのぬく
 おとこのこも スカート を 着く

最後にもう一冊、最初の質問、ジェンダーへの意識が変わりましたか？
 最初の答えと少し変わった子、覚えていない子、「どっちでもいいやでー！」とみんなに言ってくれた子、「みんな違って、みんな人間！」

■ SNS 等での実施報告

イベントの様子は企画者のウェブサイトや SNS (Facebook・Instagram) でも報告され、多くの方に取組の内容や企画者の感想が共有された。



salon.de.apple と takuji.ch...
子育てサロンあつがる

プロフィールを表示

Instagramでもっと見る

「いいね！」69件
salon.de.apple

先日@takuji.chachaさんと合同で、おはなし会を開催しました
🌸🌸

というか、やはり内容が理解出来る学年の子たちから感想を聞きたく、学童保育をなさっているちゃちゃさんにご協力いただいた次第です🙏

いつもと違う場所、初めての人相手に、子どもたちは少し緊張気味。。かと思いきや、みんなめっちゃ手を挙げて、大きな声で発言してくれました🙏❤❤

他の子が発言している間は、みんなその子の方を向いて意見を聴いていて、わちゃわちゃにならないのは、さすが小学生だな🌸と感じました🙏*

事前打ち合わせの際、ちゃちゃのあや先生と『すぐには理解出来なくても、考えが変わらなくても、この子たちが大きくなって直面した時、ふと思いついてくれるような機会になったらいいなあ❤』と話していました🌸

感想をきいている間にも、「僕の友達にも。。」「周りにもおるでな🌸」と、すぐに自分の周囲と結びつけて考えてくれる子たちがいて、純粋でフラットな考えを持った姿に、嬉しくなりました❤

また機会があれば、このような取り組みをしていきたいと思います🙏🙏🙏🙏

#みっちときりー #フレンデみえ #学童保育 #ジェンダー #三重県 #松阪市 #松阪 #託児所 #子育てサロン #あつがる #りんご #子ども #ママ #子育てママと繋がりたい #パパ #子育て応援 #子育て相談 #カウンセリング #心理カウンセラー #保育士 #保育 #保育園 #幼稚園 #津市 #伊勢市 #明和町

コメントを追加...

IV. 参考事例：イベントでの活用

2. 複合文化施設（三重県総合文化センター）

概要：総合文化センター主催の夏休みの子ども向けイベントとして取り上げた。

企画団体 公益財団法人三重県文化振興事業団	団体の概要 三重県総合文化センターを指定管理者として管理・運営する団体	担当者 三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」事業課
参加者の年齢と人数 1回目 4歳 6人、5歳 4人、6歳 5人、7歳 1人 計 16人 2回目 7歳 7人、8歳 4人、9歳 4人 計 15人		実施時間等 各回 90分
企画の概要・目的 ・（イベントタイトル）アソボ・マナボ・タノシソウブン みんなの描いた絵で“自分らしさ”の森をつくろう ～フレンテみえの絵本「みっちときりー」の世界～ ・夏休みの子ども向けイベントとして、「みっちときりー」の作者である KYO さんに来場いただき、絵本の読み聞かせ・マインドフルネスワーク・アート創作ワークショップを行った。		
進行		注釈・留意点・工夫したポイント等
<p>事前準備</p> <p>子どもたち自己紹介・「自分の好きなもの」を発表</p> <p>1. ファシリテーター・スタッフ挨拶</p> <p>2. マインドフルネスワーク「音を聴くワーク」 ファシリテーター：KYO</p> <p>3. マインドフルネスワーク「足の裏の感覚を感じるワーク」 ファシリテーター：KYO</p> <p>4. マインドフルネスワーク「呼吸のワーク」 ファシリテーター：KYO</p>		<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが会場に入って、わくわくしたり、作品の世界観に入りこめるよう、絵本の頁を拡大した大きなパネルを準備した。 自由な発想を促すため、画材だけでなく、普段絵を描く時に使用しない様々な素材（木屑、落ち葉、羊毛等）を用意した。 子どもたちが自分の感覚と向き合う時間にできるよう、保護者は離れて見守ることができる座席配置にした。 好きなもの・ことは、それぞれ違うことも同じこともあると知り、どんなことでも否定されずに皆に聞いてもらう体験を導入ワークとした。 今聞こえてくる音に耳を澄まし、音に集中するという体験すると同時に、人によって聞こえ方が違っていいことを伝えた。 子どもたちが“自分の身体がバランスを取っている”ということに自然に意識を向けるような声かけを行った。 自分の呼吸を意識し、集中することで、落ち着きや心地よさなどが感じられるかなど、心身への気づきの問いかけを行った。

<p>5. 絵本の読み聞かせ（朗読：なりかわちほ） 大型絵本（詳細後述）を作成し、使用。</p> <p>6. 今自分の中に浮かんだものを作ってみよう ファシリテーター：KYO</p> <p>7. 作品を絵本に貼ってみよう！ 絵本のいくつかの頁を背景画のみ大きく出力したパネルを用意し、自由に作品を貼り付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の世界に入り込めるよう子どもたちの身長よりも大きいサイズの絵本を用意した。 ・頁めくりも朗読も、ゆったりとしたスピードで行うように心がけた。 ・絵本の朗読を聞いて、「みっちときりーのお友達」など、絵本の中に登場させてみたいと思うものを自由に作ってもらうように伝えた。 ・木屑、羊毛など多彩な素材の使い方のサンプルを示し、子どもたちの創造性を促した。 ・子どもたちの感性や想いを尊重し、希望する場所に貼り付けられるようにした。
--	---

■ 参加者の反応・感想

<p>○絵本について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きめつけてはいけないとおもった。ひとをみためではんだんしてはいけないとおもった。 ・わる口をいったり自分がいわれたらいやなことを人にいってはいけないことをまなびました。 ・絵がかわいくて声がきこえてきそうでした。 ・男らしくしないといけないのではなくて、自分らしくしたらいいと思いました。自分は自分。 ・さいしょはみっちはきりーともだちじゃなかったけど、とちゅうからともだちになれたところがうれしかったです。 <p>○ワークショップについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろんな具材で作ると、すごくきれいになるんだなと思いました。 ・自分らしくしたらいい。と思いました。 ・自由に自分らしくいることが大切。 ・教えてくれた先生がたにたくさんのことを教えてもらいうれしいです。中にはお絵かきや難しいところもあったけど楽しかったです。 ・絵を描くことが楽しいことに気づきました。
--

■ 保護者の反応・感想

<ul style="list-style-type: none"> ・個性を大切に、人の心を大切に、みんな同じじゃなくていいということを小さい時から自然に感じていたらどんなにいいでしょう。そんな想いを感じました。 ・子どもでもわかりやすく多様性について書かれていてよかったです。 ・体を使うワークや音を捕まえるワークでイメージの力が刺激されたのではないかと感じ、貴重な体験をさせていただきました。
--

IV. 参考事例：イベントでの活用

■ 運営に参加したインターンシップ学生の感想

物語の中では(みっちときりーは)相手と距離を取るのではなく、歩み寄る姿勢が見られ、互いを受け入れようとしていました。読み終わったとき、心が温まったと共に、みっちのような優しさを持って生きたいと思いました。

■ 企画者の感想・考察

絵本の朗読後、感じることを大切にするためファシリテーターからはあえて感想を聞くことをしなかったが、子どもたちは自ら感じたことを口々に話していた。

身体を使ったマインドフルネスワークや様々な素材を使用して絵を描くということは、子どもたちにとって初めての経験であったりして、はじめは戸惑いの表情を見せながらも集中して取り組んでくれ、多様な作品を作り上げることにつながった。「何を描いたらいいかわからない」という子は見当たらず、それぞれが作りたいものを自由に作っていた。素材の手触り、匂いなど五感を働かせて作品を作るということは子どもたちにとっても新鮮味があったのではないと思う。

参加しての感想を伺っていると、子どもたちからも保護者の方からも自分が好きなことを好きと言えること、自分らしく生きていくことの大切さを感じたことを記していただいております。今回のワークショップをとおして作者の作品に込めたメッセージ、想いが参加者に伝わったのではないと思う。

■ 当日の様子

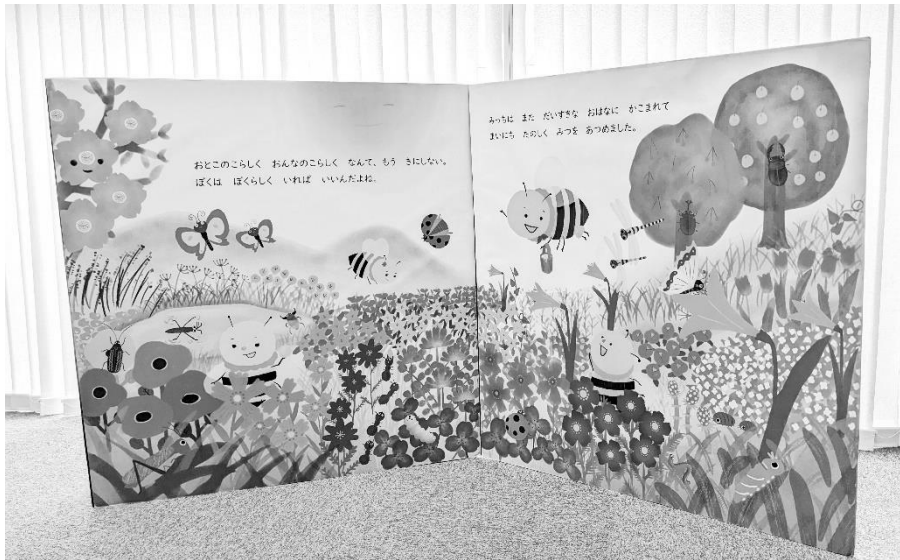


出来上がった作品は、三重県総合文化センター内に一定期間展示し、一般の来場者にもご覧いただいた。

■ 大型絵本

90cm（開くと 180cm になる）の段ボール製絵本を作成した。

各頁を蛇腹に配置し、広げると屏風のようになる。読み聞かせの際は 2 人で両端を支え、1 頁ずつめくる。



V. まとめと考察

1. 就学前施設での活用事例から

■ 対象年齢

就学前施設での事例は、5歳児または4歳児を対象としていた。4歳児の例においても、保育者の想定以上に子どもが内容を理解していると報告があった。実施時期を鑑みると、大半が5歳に達していたとは考えられるが、発達段階を見て、4歳児クラスから取り組めると考える。

人権擁護員による人権教室として自治体を実施した事例では低年齢児も含めて園児全員を対象としていた。読み物として、あるいはイベントとして楽しめるよう工夫がなされれば、低年齢児を含めて取り組んで差し支えないと考える。

■ 主眼・目的

ジェンダーへの理解のみでなく、自己肯定感や自己表現、他者への理解等が、主眼・目的として多く挙げられている。「みっちときりー」の示す『「自分らしさ」を大切にし、対話によって「違いを認める』』という主題が、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示される「5領域」における「人間関係」や、「10の姿」で求められるものに合致しているためと思われる。

また、「みんな違っていい」という多様性の考えから、ジェンダーのみでなく国籍・人種等へも学びを広げる事例もあり、広くダイバーシティの視点を育てる目的でも取り組めると考える。

■ 取組について — 保育者からの問いかけ・働きかけ

多くの事例で、読み聞かせの後に保育者が問いかけをし、子どもの感想や考えを引き出す働きかけをしていた。具体的な質問を投げかけることで、より子どもの考えを引き出しやすく、理解を助けている。一方で、誘導的になる質問をあえて避け、子どもの想いを注意深く受け止める事例もあった。

いずれの場合も、保育者の姿勢によって、子どもが安心して自身の想いや考えを表出しやすい場が作られており、そのことが取組を実施するうえで重要だと考える。

■ 取組について — その他の題材

いくつかの事例で、「みっちときりー」以外の題材を併用していた。イラストや写真など、視覚的にジェンダーの表現が分かりやすい題材を使うことでイメージを補い、子どもの考えを引き出す工夫がみられた。

また、主題のリンクする他の取組の「まとめ」として活用した例や、同じ主題への連続した取組の1題材として取り入れた例もあった。

複数の題材を活用することにより、多角的な視点からジェンダーに触れ、より理解を深めることが期待できる。また、一過性ではなく定期的にそうした題材に触れる機会を作ることも良いだろう。

■ 取組について — 話し合いの機会

ほとんどの事例で、読み聞かせの後に感想を話し合っていた。子どもから自由な言葉が引き出され、他者の考えを聞く機会ともなっており、「みっちときりー」の主題のひとつである「互いの違いを認める」ことの実践となっていた。絵本を「読む」ことよりも、その後の「話し合う」ことに重点を置いた事例が多く、教材として有効に働いたことが伺える。

ただし、普段の保育の中での読み聞かせの実践事例もあり、日常的に繰り返し触れられる「いつもの絵本」として「みっちときりー」を選択する、あるいは保育室の書棚に並べる、ということも有効と考える。

■ 子どもの反応

読む過程では、登場人物の表情に同調して顔を曇らせたり笑顔になったり安心した顔を見せたりと、絵本ならではの表現が子どもによく届いているように見受けられた。登場人物の心情も素直に受け止め、性別を理由に自分らしさを否定される苦しみや認めてもらえた時の嬉しさを想像した感想が多く寄せられた。読んだ後には、好きな遊びをしたらいい、みんな違っていい、と互いの違いを認めることまで言葉にできているものもあった。

また、取組の中でジェンダーの認識を確認するための保育者の問いかけについて「性別のラベルでなく個で示してほしい」という主旨の声があがったり、取組の後に性別役割の押しつけが見られる発言に対して口々に「それはいけない」と表出するエピソードが挙げられるなど、取組の効果が日常の言動として表れている事例もあった。

■ 保護者への働きかけ

いくつかの事例で、取組の報告を掲示または配布等で保護者へ知らせていた。ジェンダー規範は家庭での学習要素が大きいが、各家庭への直接的な啓発は非常に難しいのが実情。この取組が保育の取組報告として保護者に示されることで、各家庭への働きかけができる意義は大きい。

■ 保育者の意識向上

多くの事例で、この取組への参画が保育者自身にジェンダーを考えるきっかけを与えていた。保育者間での話し合いの場が設定される、普段の子どもの姿を顧みる、施設内の課題や注意すべき保護者を認識するなど、施設全体としてのジェンダーバイアスの点検にも寄与したと思われる。

■ 自治体との協働

就学前施設での取組について、自治体が主導して実施する事例が寄せられたことは、とても興味深い。特別な枠組みを増やすことなく、これまで行われていた「人権教室」の中にジェンダーの視点を加えていただくことができた。

就学前施設における「みっちときりー」の活用については、以上のように、取り組む内容としての意義、子どもへの伝わり方、保護者・保育者への波及効果と、様々に望ましい効果が見られ、取組の方法についても参考になる事例が寄せられた。

ジェンダー規範は幼児期から形成されるものであり、家庭と並んで幼稚園や保育所の環境は重要である。「自分らしさ」や「他者への理解」の育ちの過程に、ジェンダーの視点も含めていただくと良いだろう。また、保育者の皆さまには、取組のみでなく施設での生活一般の中においても、ジェンダー規範に基づくルールや性別による区別がないか、いま一度、点検いただくことを是非お願いしたい。

寄せられた保育者からのフィードバックをみると、取組前の予想を超えて多様な子どもの反応が見られたとの感想もあった。ジェンダーに関する取組について、保育者が「まだ難しい」「伝わるか不安」と感じる場合にこそ、恐れずに取り組んでみることを後押しできる教材として「みっちときりー」を勧めたい。

V. まとめと考察

2. 小学校での活用事例から

■ 対象学年

教材としての授業での活用は、第1学年、第2学年、第3学年および特別支援学級での事例であった。幼児期から親しむ「絵本」という媒体であり、シンプルなストーリー展開であることから、低学年から取り組める教材となったと考える。また、特別支援学級での事例もあり、多様な子どもと一緒に学ぶ場合にも取り入れやすいと考える。

第2・3学年の複式学級での取組において、第2学年と第3学年の児童の反応の違いに言及されている。第2学年に比べて第3学年の方が、ジェンダーに関する固定観念が抜けにくいと報告された。1事例でのサンプルであり、個人差も大きいことではあるが、年齢が上がるほどに社会からのジェンダー規範の影響をより多く受けているものと考えられ、興味深い。

■ 教科

生活科での活用が2例、総合的な学習の時間での活用が1例、特別活動（学級活動）での活用が2例あった。特別支援学級では国語科での活用であった。一方、授業ではなく、朝の読書の時間での事例も報告された。教科を限定せず、様々な場面で活用できると考えられ、このことについては、さらに後述する。

■ 主眼・目的・目標

すべての事例で、「自分らしさ」を大切にすることを挙げており、「他者への理解」も多く挙がっている。平成29年度改正の学習指導要領前文には、『一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓ひらき、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。』と示されている。小学校課程の全般を通してこうした力を育むことが求められていることから、低学年から取り組める人権教育の教材として活用されたと考えられる。

■ 取組について

生活科や特別活動、総合的な学習の時間の事例では、いずれもシーンを区切って読み進め、都度、考える時間を設けていた。登場人物の心情を考えることから、どうすれば良いか、自分ならどう思うかと、発展して熟考できるよう展開させていた。ある事例では、登場人物の次の行動をクイズのように出題することで、その行動の理由も含めて主体的に考えられるよう促す工夫がされていた。

特別支援学級の国語科では、絵本を読んで感想を「書く」ことに重点を置いていた。適切な支援のもと、自分の考えを文章で整理しておくことで、感想交流をすることができていた。

授業時間は、1時間の取組から、他の題材の利用も含めて2～3時間の事例もあった。総合的な学習の事例では、5時間の指導案のうち2時間で取り上げていた。

授業での活用は、いずれの場合も、絵本を「読む」ことよりも、「考える」ことに重点を置いており、「みっちときりー」が教材として有効に働いたことが伺える。

一方で、「朝の読書の時間」での取り上げも全校生徒が対象となっており、大変意義深い。

※小学校での活用事例における1時間は1コマ=45分をさす

■ ICT の活用

多くの事例で、児童に配布されているタブレット端末や動画を使用していた。小学校での ICT 活用が広まり、教材の配布や授業の展開にもデジタルツールの需要があることが伺える。「みっちときりー」には、ウェブサイト上にデジタルブック版があるため、ICT 活用にも適していたと思われる。

※デジタルブック版については【64 頁】参照。

■ 児童の反応

児童の反応・感想は、第 1 学年から第 3 学年の児童から寄せられたものが報告された。あらかじめ「男らしさ」「女らしさ」について児童に問うた例では、概ね伝統的なジェンダー規範に即した回答が得られ、小学校低学年のこの時期に、すでに性別役割分担としてのジェンダー観が形成されている様子が見られた。ただし、少数ではあるが、そうではない、そうとは限らない、との言及もあった。

ジェンダー規範を外れるという指摘に“恥ずかしく”思う主人公の心情も理解ができる年齢であり、そのことで、好きなことを我慢する辛さも想像できている。登場人物の心情に沿う中で、自身の中に既にあったジェンダー規範を疑い、葛藤する様子が伺える。そして、なぜそうしたのか、どうすれば良いか、自分ならどう思うか、と一歩踏み込んで考える中で、自分なりの考えを言葉にすることもできている。そうした学習を通して、自分らしさは性別に関わらないことも、違いを尊重することも、無理なく学んでいるように見受けられた。

また、我慢して友だちと付き合わなくてもよい、周りの目を気にせずに自分の好きなようにしてよい、といった「自分が人と違うことを肯定できた」という主旨の感想もあり、実際に辛い思いをしているかもしれない児童には、ポジティブな気づきになったのではないかとと思われる。

■ 教員による課題の認識

ほとんどの事例でジェンダーへの理解が目標に挙げられたが、その背景として、普段の児童の姿等からジェンダーバイアスの課題を教員が認識していたことが記されていた。また、特別支援学級の事例では、学校全体として性の多様性の理解を進めている中で特別支援学級での取組に難しさを感じており、その糸口として「みっちときりー」を選択されたようだ。この取組がそれらの課題に向き合うきっかけとなり、またこの後も継続して学習に取り組んでいく意思が見られた。

小学校における「みっちときりー」の活用については、以上のような望ましい効果が見られ、取組の方法についても参考になる事例が寄せられた。特に、他の題材との組み合わせによる実践事例が興味深く、更なるアイデアで活用が出来そうだと感じた。

ジェンダー教育は、学校生活の様々な場面において、各学年・各教科を通して、それぞれの段階でジェンダーの視点を取り入れていくことで、より包括的な学習ができると考えられるため、多角的な取組は非常に望ましい。様々な教科、あるいは授業の他の時間においても活用の可能性があると考え、次項で提案したい。

V. まとめと考察

3. 小学校での多教科での活用へ向けての提案

前項で考察したとおり、様々な教科等での絵本「みっちときりー」の活用の可能性を検討し、紹介する。

■ 生活科 第1学年「じぶんでできるよ」

1. 家の中の仕事（家事労働）を挙げ、それぞれの家庭で誰が担当しているかを分類する。
2. 「みっちときりー」を参考に、性別により家事の偏りがどうか、グループで考える。
3. 家の中で、自分が担当できる仕事はないかを考える。
4. 実際に家事に挑戦する、家事分担表をつくるなど、生活科の実践につなげる。

■ 社会科 第3学年「まちではたらく人びと」

1. 知っている職業を出し合い、その中で男性の職業・女性の職業とされているものを挙げる。
2. 「みっちときりー」を参考に、職業選択における性別による制限について、グループで考える。
3. 地域で働く人や公共の仕事を見学・調査する中でイメージした性と異なる仕事をする人に話を聞く、政治家や裁判官における女性比率から政治への関心につなげる、など、社会科の学習へつなげる。

■ 国語科 第1学年「ともだちのこと、しらせよう」

1. 「みっちときりー」を読み、違いを尊重し、その人らしさを尊重することを学ぶ。
2. 家族や友だちにインタビューをする。
3. インタビュー相手の「いいところ」「らしさ」を文章にまとめる。
4. 書いた文章を発表し、他者にインタビュー相手の良さを伝える体験をする。

■ 算数科 第2学年「ひょうとグラフ」

1. 男の子の好きな遊び、女の子の好きな遊び、としてイメージするものを挙げる。
2. 「みっちときりー」を参考に、性別イメージではなく自分が本当に好きな遊びを出し合い、クラスで「好きな遊び調べ」をする。
3. 遊びごとに人数を集計し、表にする。
4. 性別ごとに分けてグラフにし、傾向や特徴が表れるか調べる。

■ 図画工作 第1・2学年「だいすきな たからもの」

1. 身の回りの素材を集め、観察し、それぞれ「お気に入り」を探す。
2. 「みっちときりー」を参考に、性別に限らず、好きなものはみんな違って良いことを学び、集めた「お気に入り」を、より自分らしく装飾するなどし、自分だけの宝物をつくる。
3. みんなの宝物を見て、違いを感じ、その人らしさを認める体験をする。

■ 総合的な学習の時間「性の多様性を考える」

1. 「男の子向けのもの」「女の子向けのもの」を挙げる。
2. 「みっちときりー」を参考に、自分が好きなもの・こと、自分らしさを考える。
3. 一般的に男の子／女の子向けとされるもの（色、服、おもちゃ等）が、個人の好みと合致するとは限らないことを学ぶ。
4. 社会的な性＝ジェンダーの概念を学び、性の多様性への理解へつなげる。

■ 他の授業の前取組としての活用

授業で取り上げる以外にも、活用の方法は考えられる。たとえば「朝の読書の時間」等を活用し、主題の合致する学習をいずれかの教科で実施する日に、事前に「みっちときりー」を読む機会をつくることで、授業での学びにジェンダーの視点がプラスされることが期待される。そうした併用が可能と思われる教材について、現行の教科書からいくつかピックアップいたしたい。

- ・国語科 第1学年「ともだちに、きいてみよう」(光村図書)
- ・国語科 第1学年「はなしたいなききたいな」(東京書籍)
- ・道徳科 第1学年「ぼくの こと きみの こと」(学研)
- ・道徳科 第1学年「こころはっぱ」(東京書籍)
- ・道徳科 第1学年「ええところ」(教育出版)
- ・道徳科 第2学年「およげないりすさん」(学研)
- ・道徳科 第3学年「みんなの学級会」(学研)
- ・社会科 第3学年「わたしたちのくらしと まちではたらく人びと」(日本文教出版)

■ 特別活動での活用

さらに、学級活動等での活用についても検討する。ダイレクトにジェンダーを考える活動のほか、事前に「みっちときりー」を読むことでジェンダーへの配慮が期待できると考えられる活動の例もある。

・クラスの改善活動

1. 「みっちときりー」を読み、「男らしい」「女らしい」という決めつけについて、グループで考える。
2. クラスの中のルールや慣習で、性別による決めつけや偏りがないか、点検し、改善案を考える。

・委員などの選出時や、体育祭・文化祭等に向けての準備過程

1. 活動の前段階で、「みっちときりー」を読む時間を作る。
2. 性別による決めつけや偏りがないよう活動内容に配慮する
(例) 男子にリーダー役、女子にサブリーダー役が固定されていないか、
担う役割が性別によって選択されていないか 等

以上のように、小学校課程のさまざまな場面で活用の可能性を提起した。ジェンダーを学ぶきっかけとなるタイミングは、学年や教科を限らず、また授業の他の時間でも見つけることができる。固定的な性別役割分担等の偏った規範は長い時間をかけて形成されるものであり、その是正にはやはり長い時間をかけて学習を続けることがよい。できうることなら、学校生活のあらゆる場面で、ジェンダーへの意識を醸成するきっかけとなる活動を用意することが望ましいと考える。

「絵本」という媒体は、教員の指導がなくとも、児童が「読む」ことで、おのずと主題を学ぶことができる。授業での活用に加えて、授業での実践時間が確保できない場合であっても、児童が自主的に「みっちときりー」に触れる機会を作ることが推奨したい。

VI. 付録資料

1. 絵本の基本設計等

■ 基本設計

- ・ストーリー 「男の子だから」「女の子だから」といった理由で個性を否定された主人公が、他者との関わりの中で「自分らしさ」を見つけ、否定された相手と「対話」することで互いの「違い」を認めつつ理解を深めることを学ぶ。
- ・対象年齢 読み聞かせは4歳頃から、自分で読む場合は小学生から。
- ・その他 巻末には、読者へ向けてジェンダーへの理解を助けるための解説文を記載する。

■ 製本 … ハードカバー版とソフトカバー版の2種類を発刊した。

- ・サイズ 210mm×210mm 正方形
- ・ページ数 本文 24 ページ+表紙・裏表紙

ハードカバー版

- ・糸ミシン綴じ上製本
- ・表紙：マットコート PP 加工 本文：マットコート 135kg 全頁4色印刷
- ・初版：2022年3月 1,000部

ソフトカバー版

- ・無線綴じくすみ製本
- ・表紙：マットコート 220kg 本文：マットコート 135kg 全頁4色印刷
- ・初版：2022年3月 800部 第2版：2022年11月 500部

■ 共作者

KYO

イラスト制作者。MBSR（マインドフルネスストレス低減法プログラム）認定講師、MSC（マインドフル・セルフコンパッションプログラム）講師。男女共同参画センターでの勤務経験を活かし、ジェンダーフリーの視点を取り入れたイラスト、デザイン制作を行うと共に、マインドフルネス、非暴力コミュニケーション（Nonviolent Communication）、内的家族システム（Internal Family Systems）、表現アートセラピーなどを学び、実践の会の主催や講師活動を行っている。愛知県在住。

■ 制作過程

「みっちときりー」の制作にあたって、作画は当センターでの勤務経験があるイラスト制作者 KYO（以下、作家とする。）へ依頼し、文についても作家と共作していくこととした。物語のベースには、十年以上前に当センターで作成したミニ冊子の内容を採用し、ミツバチとカマキリを中心的な登場人物とすることを決めた。啓発本ではあるが、虫や花の世界を描くことで、絵本ならではの創造性豊かな世界観を示し、子どもが自ら手に取り読んでみたくなるものをめざした。

制作過程においては、国立女性教育会館に男女共同参画の視点を点検いただきつつ、絵本としての表現方法等については当センター近隣の保育士の方々に助言をいただいた。

2. 絵本の内容

- ・タイトル フレンテみえの絵本「みっちときりー」
- ・クレジット 文：フレンテみえ・KYO 絵：KYO
- ・宣伝コピー 「おとこのこなのに おはなが すきなのか？」
「ぼくは みんなとちがって へんなのかな…」
ミツバチの「みっち」と カマキリの「きりー」。
考え方も好きなものも全然ちがうふたりです。どうしたら、分かりあえるでしょう。
ちいさなお子さんと一緒に読んでいただける、フレンテみえオリジナルの絵本です。

■ 完成絵本（全頁）



表紙

1 頁



2 頁

3 頁

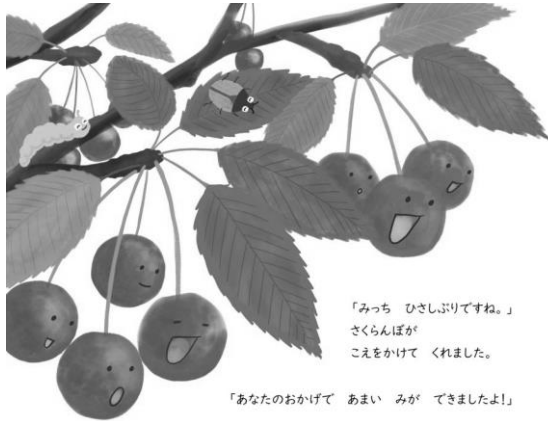
VI. 付録資料

みっちは
おはなの みつを あつめるのを
やめてしまいました。

そして どうやったら おとこらしく なれるのか
かんがえました。



4 頁



「みっち ひさしぶりですね。」
さくらんぼが
こえをかけて くれました。

「あなたのおかげで あまい みが できましたよ!」

「ぼくの おかげ?」

「そうですよ。あなたが はなから はなへ かぶんを とどけてくれたから
さくらんぼが できたんです。」

6 頁

「みっち、なんだか たのしくなさそう。みっちじゃない みたい。」
てんとうむしの ななが いいました。

「わたしは、にこにこ わらってる みっちが すきだなあ。」

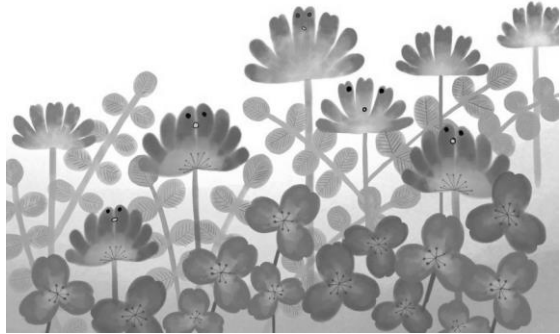


8 頁

「みっち、ちょっと あそんで いかない?」
れんげが いいました。

「ぼくは おとこのこだから
もう おはなど あそぶのは やめたんだ!」

れんげは さみしそうに みっちを みていました。



5 頁

みっちは うれしくて うれしくて、
さくらんぼと だんすたい きぶんでした。



でも やっぱり、
おんなのこ みたいなのは へんなんだ。
おはなど あそぶのは やめるんだ。

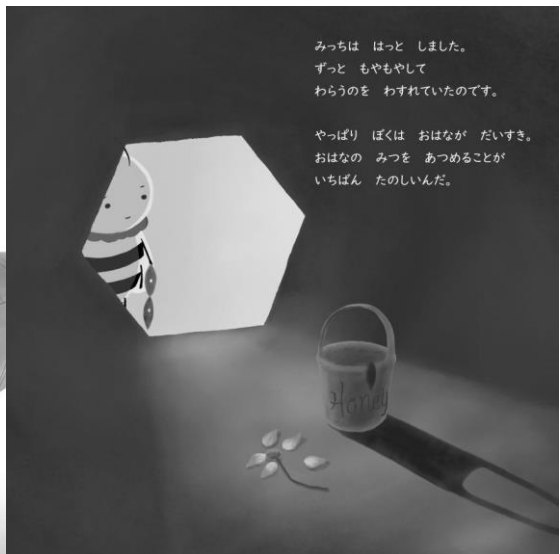
なんだか、むねの あたりが
もやもや しました。



7 頁

みっちは はっと しました。
ずっと もやもやして
わらうのを わずれていたのです。

やっぱり ぼくは おはなが だいすき。
おはなの みつを あつめることが
いちばん たのしいんだ。



9 頁



おどこのこらしく おんなのこらしく なんて、もう きにしない。
ぼくは ぼくらしく いれば いいだよね。

みっちは また だいすきな おはなに かこまれて
まいにち たのしく みつを あつめました。

10 頁

11 頁



みっちが おきにりの びんくの おはなど
あそんでいると、きりーが やってきました。

「みっち、まだ
おんなのこ みたいなことを してるのか？」

きりーに いわれて、
みっちは また
かなしく なりました。

ほんとうは ぼく、
きりーと なかよく
なりたいのに…。



みっちは、ゆうきを だして、きりーに いいました。
「きりー、ぼくと あそぼうよ。」

「ぼくは みっち みたいな あそびは しないよ。
おんなのこ みたいて かつこわるい。」

「わかった。
じゃあ、きりーの すきな あそびを しよう。」

12 頁

13 頁



おおきな かまを ふりまわして、びゅんびゅん びゅびゅーん！
「どうだ。たのしいだろ？」

みっちは
いっしょに やってみました。
でも、あんまり
たのしく ありません。

「きりー、ぼくは このあそび、あんまり すきじゃない。」
きりーは、ちょっと おこったみたいでした。

みっちは、
きりーと ぼくは すきなものが ちがうんだな、
と おもいました。

「きりー、ごめんね。でも ぼく、やっぱり いっしょに あそびたいから、
ふたりの すきなことを さがしてみない？」
「うーん。そうだな。よし、やってみよう。」

14 頁

15 頁

VI. 付録資料



16 頁



17 頁



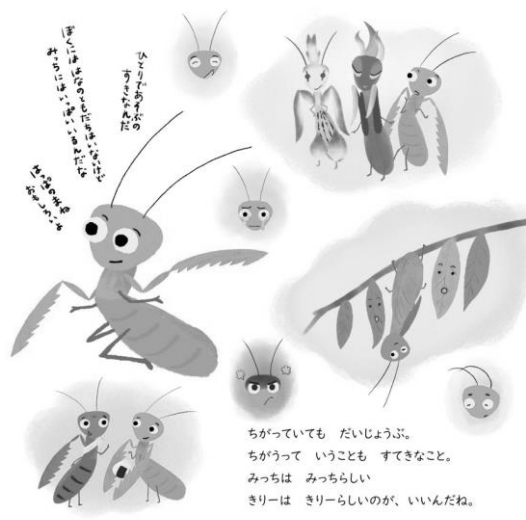
18 頁



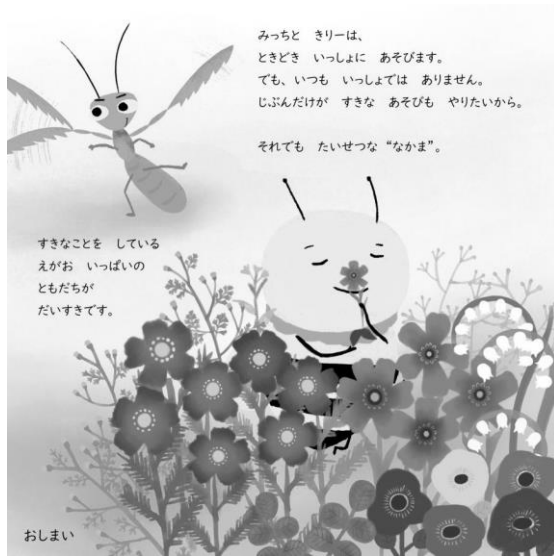
19 頁



20 頁



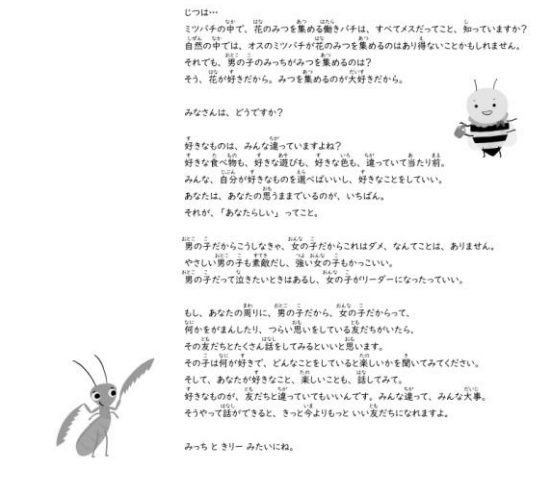
21 頁



みっちと きりーは、
 ときどき いっしょに あそびます。
 でも、いつも いっしょでは ありません。
 じぶんだけが すきな あそびも やりたいから。
 それでも たいせつな “なかま”。

すきなことを している
 えがお いっぱいの
 ともだちが
 だいすきです。

22 頁



じつは…
 ミツバチの手で、花のみつを集める働きの手は、すべてメスだってこと、知っていますか？
 自然の中では、オスのミツバチが花のみつを集めるのはあり得ないこともありません。
 それでも、男の子のみちがみつを集めるのは？
 そう、花が好きだから、みつを集めるのが大好きだから。

みんさんは、どうですか？

好きなものは、みんな違っていませんか？
 好きな食べ物も、好きな遊びも、好きな色も、違って当たり前。
 みんな、自分が好きなものを調べばいいし、好きなことをしていい。
 あなたは、あなたの思うままにいいの、いちばん。
 それで、「あなたいい」ってこと。

男の子だからこうしなきゃ、女の子だからこれはダメ、なんてことは、ありません。
 やさしい男の子も素敵だし、強い女の子もかっこいい。
 男の子だって泣きたいときはあるし、女の子がリーダーになってもいい。

もし、あなたの周りに、男の子だから、女の子だからって、
 何かをまじたり、つらい思いをしている友だちがいたら、
 その友だちとたくさん話をしてみるといいと思います。
 その子は何が好きで、どんなことをしていると楽しいかを聞いてみてください。
 そして、あなたが好きなこと、楽しいことも、話してみてください。
 好きなものが、友だちと違っていてもいいんです。みんな違って、みんな大事。
 そうやって話ができると、きっと今よりもっといい友だちになれますよ。

みっちと きりー みたいだね。

(あとがき) 23 頁

Frente

フレンテみえ

三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」は、三重県の男女共同参画を推進する拠点施設。「フレンテ」はスペイン語で「前向き」を意味する。性別にかかわらず誰もが多様な生き方を「前向き」にできるよう、表紙の資格とともに取り組んでいる。

この本は、フレンテみえ WEB サイトで「デジタルブック」としても公開しています。WEB サイトでは様々な情報を発信しています。ぜひチェックしてみてください。

KYO

イラスト制作者。男女共同参画センターでの勤務経験を活かし、ジェンダーフリーの視点を取り入れたイラスト。デザイン制作を行う。マインドフルネス、セルフコンパッション、非暴力コミュニケーション (Nonviolent Communication)、家族的システム (Interrel Family Systems)、表紙アートセッションなどを学び、これらの実践の会の主催や講師活動も行う。愛知県在住。

フレンテみえの絵本「みっちと きりー」

2022年 3月 初 版 第 1 刷 発行
 2022年 11月 第 2 刷 第 1 刷 発行
 文/フレンテみえ・KYO
 絵/KYO

発行所/公益財団法人三重県文化振興事業団 三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」
 電話 059-223-3311 30 http://www.center-mie.or.jp/frente/

この本は三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」の調査研究事業として制作しました。 [販売品](#)

24 頁 (奥付)



裏表紙

VI. 付録資料

■ あとがきより

じつは…

ミツバチの中で、花のみつを集める働きバチは、すべてメスだってこと、知っていますか？

自然の中では、オスのミツバチが花のみつを集めるのはあり得ないことかもしれません。

それでも、男の子のみっちがみつを集めるのは？

そう、花が好きだから。みつを集めるのが大好きだから。

みなさんは、どうですか？

好きなものは、みんな違ってきますよね？

好きな食べ物も、好きな遊びも、好きな色も、違って当たり前。

みんな、自分が好きなものを選べばいいし、好きなことをしていい。

あなたは、あなたの思うままにしているのが、いちばん。

それが、「あなたらしい」ってこと。

男の子だからこうしなきゃ、女の子だからこれはダメ、なんてことは、ありません。

やさしい男の子も素敵だし、強い女の子もカッコいい。

男の子だって泣きたいときはあるし、女の子がリーダーになったっていい。

もし、あなたの周りに、男の子だから、女の子だからって、

何かをがまんしたり、つらい思いをしている友だちがいたら、

その友だちとたくさん話をしてみるといいと思います。

その子は何が好きで、どんなことをしていると楽しいかを聞いてみてください。

そして、あなたが好きなこと、楽しいことも、話してみてください。

好きなものが、友だちと違っていてもいいんです。みんな違って、みんな大事。

そうやって話ができると、きっと今よりもっといい友だちになれますよ。

みっち と きりー みたいにね。

■ オンラインでの展開

センターのウェブサイト内に、オリジナル絵本の特設ページを設置し、全編をデジタルブック版として公開している。作家からのコメントのほか、読者から届いた絵や感想も掲載し、「みっちときりー」の発信拠点として随時情報をアップデートしていけるよう運営している。




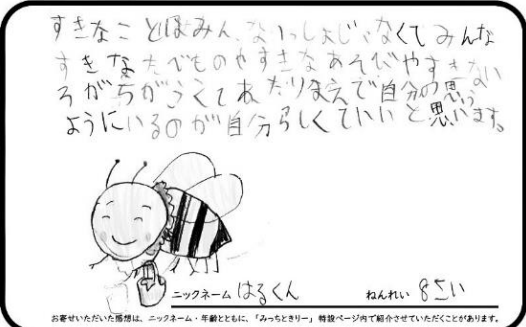
(特設ページ)

https://www.center-mie.or.jp/frente/mitch_and_kily

チラシおよび特設サイトからのフィードバックについて、次項に一部を紹介する。

3. 読者からのフィードバック

「みっちときりー」のチラシおよび特設ページにより寄せられたフィードバックの一部を紹介する。

 <p>みんなそれぞれかんがえやすきなあそびがちがっていいとおもいました。みっちがいていたようにおとこの子は、このあそびでとか、おんなの子はこのあそびとかは、かんけいないとおもいました。</p> <p>ゆめはヴァイオリニスト 7歳</p>	 <p>すきなことは みんないっしょじゃなくて みんなすきなたべものや すきなあそびや すきないろがちがうくて あたりまえで 自分の思うようにいるのが自分らしくていいと思います。</p> <p>はるくん 8歳</p>
<p>みっちときりーが、おたがいのすきなものをやりながら友だちになれてよかった。とちゅうでおどっているところがおもしろくてわらっちゃった。</p> <p>しろねこ 7歳</p>	<p>みっちときりーは仲があまりよくなかったけどみっちがゆうきを出して 仲よくしたいということをついたゆうきがすごいと思った。みっちときりーがすきなことは さいしょちがったけど さがしてみつけてあそぶ それがいいなと思った。</p> <p>はな 11歳</p>
<p>保育園でボランティアをしています。男の子だから泣かない、女の子だからおしとやかになど、誰でも一度は言われたことがある言葉にいつも違和感を感じています。とある施設で読んで、とても素敵な内容だと思い保育園でも読んであげたいなと思いました。</p> <p>たお 28歳</p>	<p>私は2児の母親であり、保育士をしています。この本を読んで子どもたちに、素直に自分の好きなものを選えらばいいし、好きなことをしていい。そして、相手が好きなことをしている姿を認める心も持ってほしいと感じました。読んだあとに、ほっこりする気持ちになりました。</p> <p>ゆらず 30歳</p>
<p>とっても素敵な絵本で感動しました。今まで出会ったことのあるジェンダーフリーをテーマにした絵本は、「自分らしく生きる」ことの大切さを強調したものが多かったですが、「みっちときりー」は、それだけでなく、違いを認め合い、尊重し合うことの大切さもしっかりと伝えてくれているところが素晴らしいと思いました。絵本では、「みっち」が、自分と違う考えを持った「きりー」を、遠ざけるのではなく、理解しようとする勇気をもって歩み寄っていき、互いの相違点を認めつつ一致点を見つけていくところに心を打たれました。相手を理解するためには、コミュニケーションが大切だということも、絵本から学び取ることができました。子どもだけでなく、大人にとっても…、むしろ考え方の違う人を遠ざけてしまいがちな大人こそ読む価値のある絵本かもしれませんね。</p> <p>みー 47歳</p>	

4. 報道記事等

■ 2022年8月19日 中日新聞 朝刊 17頁 許諾番号 20230420-29245

ジェンダー押しつけられるものじゃない



⑤ 絵本を手にする今井さん。津市一身田上津部田のフレンテみえで、
⑥ 絵本の土台となった手描きの冊子



県男女共同参画センター「フレンテみえ」（津市一身田上津部田）が、ジェンダーをテーマにした絵本「みっちときりー」を制作した。隣接する県文化会館内のアートショップ「Mikkie（みっけ）」で、二十日から販売する。物語は、導考者を持つミツバチとカマキリが、互いに理解し合う内容。制作したセンターの担当者は、子どもたちへ「男の子らしさ、女の子らしさに縛られず、自分らしさを大事にしてほしい」と願いを込める。（坂田恵）

子どもたちへ絵本で訴え

絵本では、花の蜜が好き
な男の子のミツバチが、男
の子のカマキリから「女の
子みたい」と言われのを
機に「みんなと違って変な
のかな」と考え、自分らし
さに気づく。好きな遊びは
異なるが、一緒に楽しめる
遊びを探しながら、互いの
好みや考えを尊重し合っ
て仲良くなる。
絵本の制作は、名古屋
在住のフリーランス、KY
O（本名・）さん
（至りがセンターの職員だっ
た十七年ほど前に作った物
語の冊子が、事務所内で見
つけたのがきっかけ。男
の子のミツバチを主人公に
して親しみやすいシエンタ
ー平等を発信するなど、現
在でも通じる内容だったこ
とから、センター事業課の
今井香葉さん（と）KYO
さんが筋書きを練り直し
た。
冊子の内容に加えて、自
分と違う相手と認め合う大

フレンテみえ制作、あす発売 サイトでも公開

切さも伝えようと、ミツバ
チがカマキリと一緒に遊ぶ
展開を加えた。イラストは
今回もKYOさんが担当。
男の子のミツバチがピンク
色のスカートを身に着ける
など、性別による固定観念
を読み手に感じさせない表
現も意識した。二月に完成
し、県内の公立保育園や幼
稚園、図書館などに配つ
た。
絵本は二十一歳四方の一
十八で、価格は八円。同
特設サイト上でも公開し
ており、読者からの感想も
一緒に紹介している。
八歳の子もからは「好
きなことは違ってたけれど
で、自分が思ってたよりも
のが自分らしくていいと思
う」といった言葉が寄せら
れた。
今井さんは長女とや保
育士にも意見を聞き、子こ
もでも理解できるよう誤行
錯誤した。無意識で結
大人が性別で意識に結び
付けず、子どもの意思を尊
重することで、自分ごとへ
過こせる社会につながる
と話し、大人にも読んでほ
しいと願っている。

■ 2022年7月1日発行 大台町立図書館「図書館だより」Vol.98

「みっちときりー」がおすすめ書籍として取り上げられた。

文学と絵本のひろば

おすすめの文学作品や絵本を紹介します。

『みっちときりー』 フレンテみえ・KYO 文 KYO 絵
三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」

大台 児

みつばちの男の子みっちは、お花が大好きです。花から花へと飛んでみつを集めています。ある日、かまきりのきりーに女の子みたいだと言われ、自分のことがずかしくなってしまう。男の子らしさを目指して、大好きなことを我慢するのですが…。

「自分らしさ」を閉じ込めたことがある人は、実はたくさんいるのではないのでしょうか？色々なことが思い浮かび、心がキュッと締め付けられる絵本です。（紹介：扇田）

図書館だより Vol.98 表紙

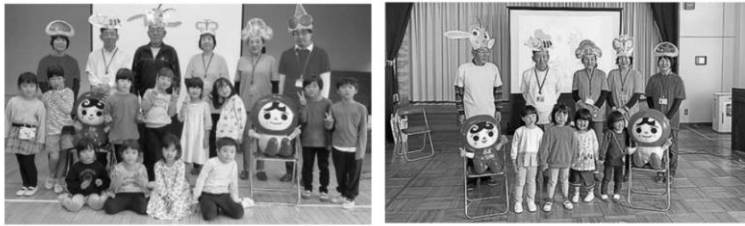


■ 2022年12月「広報みなみいせ」No.207

保育園での事例が紹介された。※取組の詳細は【20頁】に掲載。

保育園で人権教室

11月8日に穂原園、16日になかよし園で、人権擁護委員のみなさまにより、人権教室が開催されました。三重県男女共同参画センター「フレんてみえ」の絵本、「みっちときりー」の朗読を人権擁護委員が行い、違いを認め、自分らしくあることの大切さを学びました。



広報みなみいせ No.207 表紙



■ 2023年2月 名張市男女共同参画「つうしん」第119号

小学校での事例が紹介された。※取組の詳細は【34頁】に掲載。

こんな学習
をしています!

名張市立小中学校の「男女共生教育」 みんなが大切にされる社会へ…
3校の取組を紹介します。

～ 名張市立錦生赤目小学校 3年生の学習から ～

「自分らしさは自分がきめる」

三重県男女共同参画センター「フレんてみえ」で制作された絵本
『みっちときりー』を活用した授業を紹介します



あらすじ 花の蜜を集めるのが好きだったミツバチのみっちは、カマキリのきりーに「みっちっておとこのこなのにおはなが好きなのか？おんなのこみたいだね。」と言われ、自分の意思に反して自分の好きなことをやめてしまいます。けれども、もやもやした気持ちが募り再び自分の好きなことを始めます。きりーと遊びたいみっちは、勇気を出して二人が好きな遊びを探そうと提案し、その遊びでみっちが楽しそうに遊ぶ姿に気がついたきりーも変わっていく、というお話です。

このお話から、二人が自分の好きなことや大切にしていることを伝え合い、違っていても大丈夫、違うことがすてきであること、きりーのように、自分が間違っていたことに気づき変わっていく姿を見て、変わらなければならないのは周りであることにも気がついてほしいと願う授業をしました。遊びという身近なテーマであったせいか、みんなよく考え、自分の言葉で話したり書いたりしてとてもたくさんの考えが出されました。



…………… 子どもの感想 ……………

- * 女らしく男らしくなんて関係なく、自分らしくが一番いいなと思いました。
- * みっちときりーは好きなものはがうけれど、楽しいことをさがしたらどっちも楽しいことがあるんだと思いました。
- * 男の子らしく、女の子らしくは関係なく自分の好きなことをしたい。好きなことをしている人に「〇〇みたいでかっこ悪い。」などと、言わないようにしようと思いました。

つうしん第119号 表紙



【 寄稿 】 「ジェンダー」という言葉が必要のない社会へ

三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」が作成した絵本『みっちときりー』は、令和4年度に三重県内の保育施設や小学校で広く読まれ、今回その実践事例報告を刊行する。素晴らしいことだ。

社会学を専門とする筆者は、1980年代後半に「ジェンダー」すなわち社会的・文化的に作られた性差の課題を学んでいたが、この用語が一般社会で広く知られるようになるのは2000年をだいぶ過ぎてからと記憶している。多くの業界で女性管理職が少なく、「ガラスの天井」（昇進能力ある女性の出世が阻まれる）が見られ、男性の育児休暇は少しずつ浸透してきたとはいえ、「ワンオペ」（夫婦のどちらかもしくはひとり親家庭で、一人子育て・家事・仕事をこなす状態）の苦しみも各所で聞かれる。

『タンタンタンゴはパパふたり』（ペンギンのオスカップルが卵を孵化させ育てたニューヨークの動物園の実話）や『王さまと王さま』（王子の結婚相手に男性が選ばれる物語）など、海外発の邦訳絵本を10年ほど前に知り、性の多様性などがとてもわかりやすく描かれていると「社会学」「教職論」などの授業で学生に紹介してきた。日本でもこのような絵本が多く刊行されることを密かに望んでいた。性別違和などはすでに未就学の時点で感じるという調査結果もある（中塚幹也 2017『封じ込められた子ども、その心を聴く』ふくろう社）。性別に違和を持つ子がいるかもしれないのに、正しい知識を持っていないおとなたちが、「男の子は・・・」「女の子は・・・」など、自らのジェンダー価値観を押し付けていることに気づいたからだ。

この実践事例報告を読めばわかるとおり、教育者・保育者の入念な事前準備のもと、こどもたちは、ミツバチの「みっち」とカマキリの「きりー」が過ごす虫や花の世界を、「わがこと」のように感じとっている。こどもたちなりに、「自分らしさ」の大切さや「他者への理解」という新しい気づきを持つ。そして、その後の行動が変わったと報告されている（簡単に行動変容しない場合もあると正直に報告されている）。こどもたちの変化は、考え方の柔軟性の大切さをおとなたちに教えてくれる。社会全体を「一人ひとり」が「違っていい」という「生きやすい」社会へ変えるのではないか。

とすると、現代日本でいまだ横たわる「ジェンダー」の課題解決は、筆者も含めた中高年の人びとがそれをしっかり学び、そして意識・行動を変革させていく問題だと言えまいか。そのために考慮しておきたいのは、「よそごと」ではなく「わがこと」として考える想像力だ。

世界経済フォーラムが毎年発表している「ジェンダー・ギャップ指数」が最新データ(2022年7月)で、日本は146か国中116位で先進国最低レベルである。先進諸国では、同性婚法や差別禁止法などの法整備が進んである。このようなニュースは、つい「よそごと」と考えがちだ。地域自治会の役割分担を決めるとき、「男だから」「女だから」と配置し、こどもたちのプレゼントでその子の好き嫌いを考えず、性別でブルーやピンクを指定してしまう。大人の行動は過去の経験に基づく。それを取り巻く社会自体は大きく変化しているというのに。

幸い三重県は近年、県全体で「一人ひとりが尊重され、多様性が受容される」という考えの施策が行われている。平成29年「ダイバーシティみえ推進方針」を策定し、翌年以降小冊子を配布している。令和3年4月「性の多様性を認め合い、誰もが安心して暮らせる三重県づくり条例」が施行された。「フレンテみえ」も、各種の啓発活動を長年続けている。その一つがこの絵本であり、実践事例報告だ。

「ジェンダー」という言葉が必要のない社会は来るだろうか。アンコンシャス・バイアス(無意識の差別)に気づくのは難しい。でも、筆者は楽観的に考えている。なぜなら、ジェネレーションZとも呼ばれる若い世代はきっとそれを感じ、世の中を変えようとしているからだ。あとは、すでに変わりつつある世の中に、筆者ら中高年の人びとが意識と行動を変えるだけなのだ。多くの世代に『みっちときりー』が愛読され、そしてジェンダー課題を皆で考え、解決できる未来を期待している。

鈴鹿大学 学長
三重県男女共同参画センター運営協議委員長
川又 俊則

フレンテみえの絵本「みっちときりー」を保育や教育で活用いただける場合は、必要に応じて絵本を進呈いたします。下記宛にご連絡ください。

令和4年度 三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」調査研究事業

フレンテみえの絵本「みっちときりー」
就学前施設・小学校での実践事例報告

令和5年3月

発行：三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」
(指定管理者：公益財団法人三重県文化振興事業団)

住所：三重県津市一身田上津部田 1234
Tel：059-233-1130 Fax：059-233-1135
E-mail：frente@center-mie.or.jp
URL：https://www.center-mie.or.jp/frente/

